



復興の礎は
いまここに
一歩、一歩

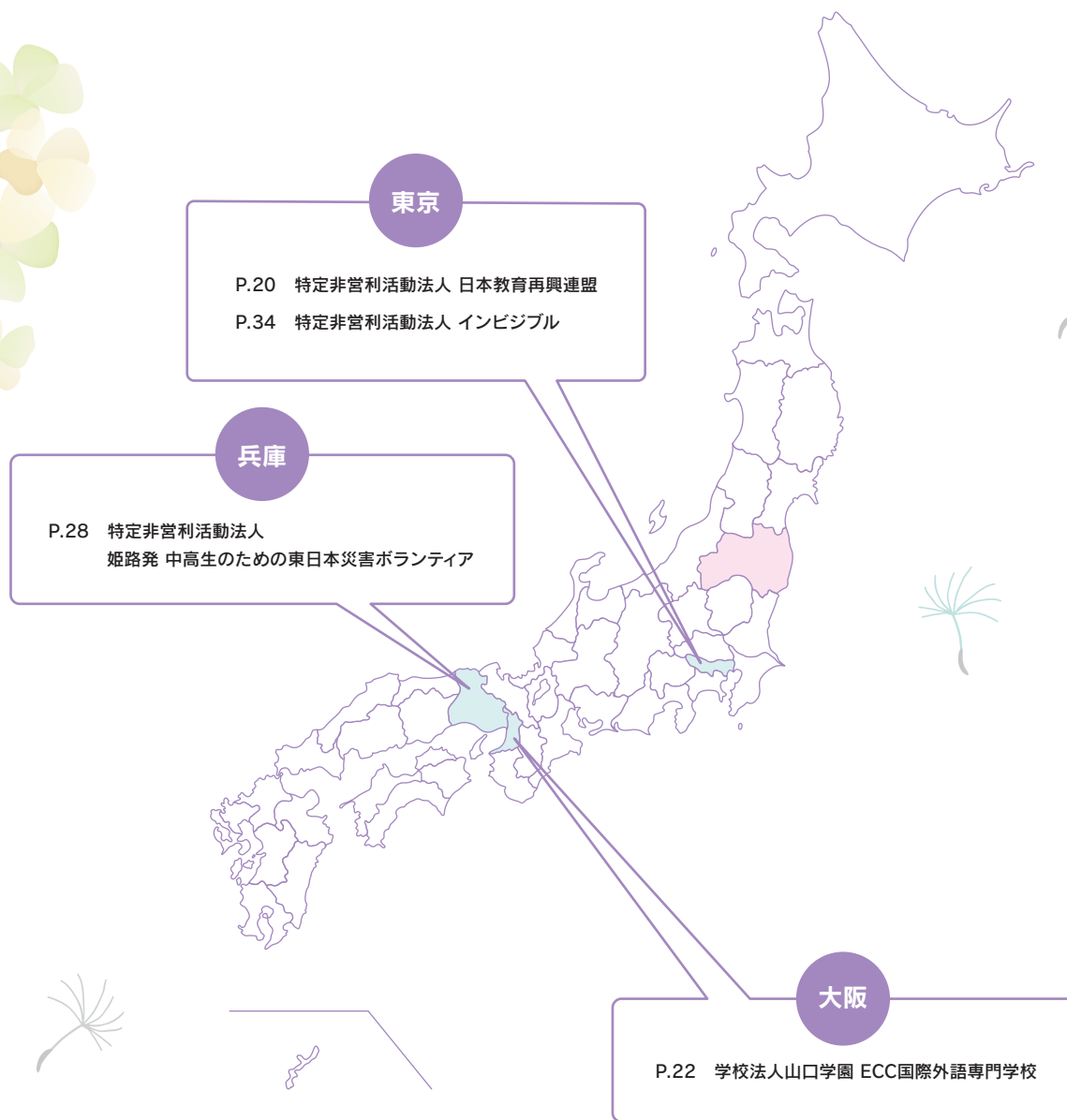
令和7年度 ふるさと・きずな維持・再生支援事業

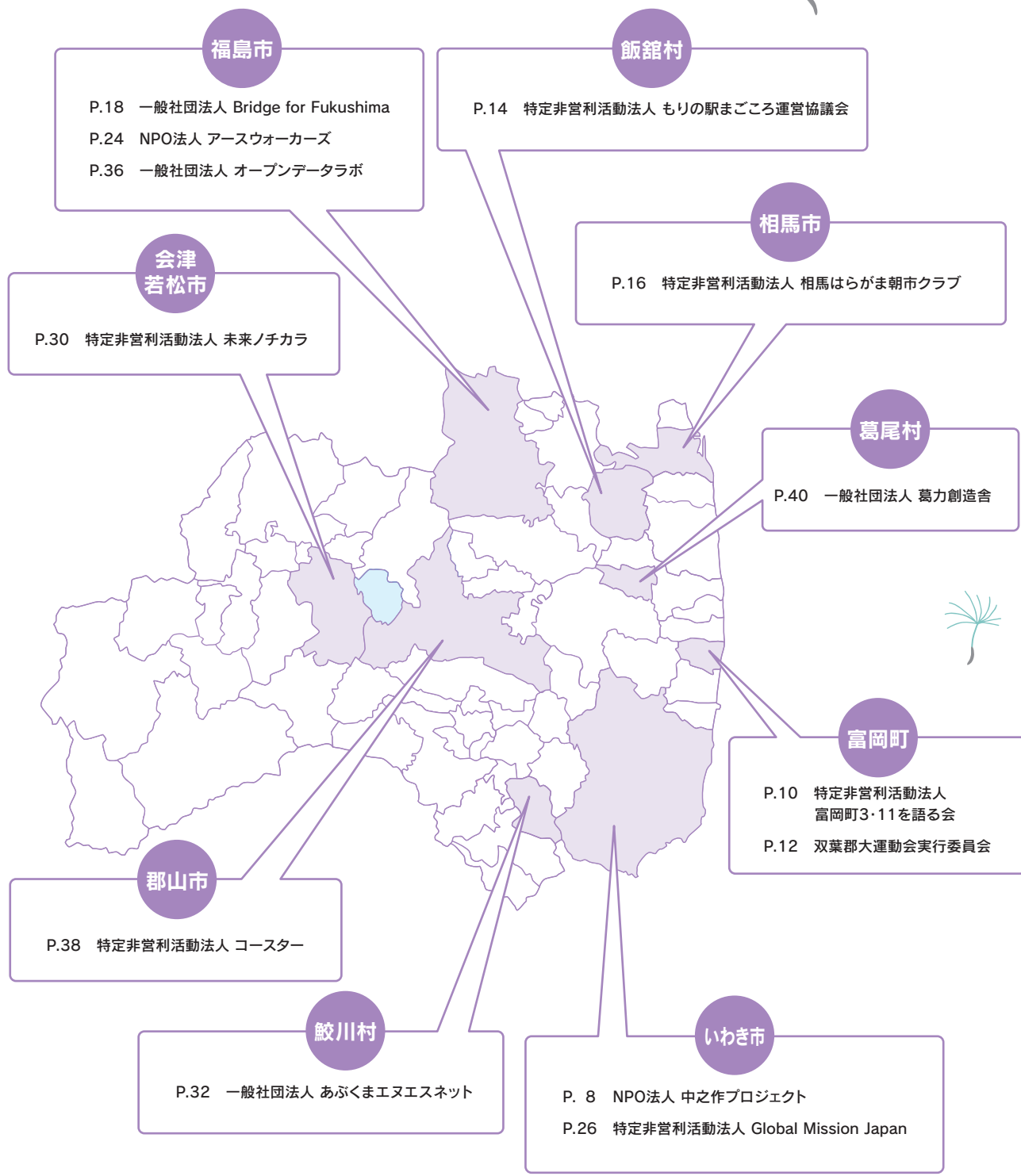
活動成果報告書



福島県

県内外の多くの団体の皆様に
ご活動いただきました。





ふくしま地域活動団体サポートセンター [URL https://f-saposen.jp/](https://f-saposen.jp/)

ふくさと・きずな維持・再生支援事業
 復興支援や被災者支援活動を行うNPO法人などをご紹介
 クリックで各リンクへ

◀ トップページの「ふくさと・きずな維持・再生支援事業」バナーをクリックすると項目が表示されます。各年度の採択団体の活動成果報告書などをご覧いただけます。



はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から15年が経過しましたが、現在も約2万4千人もの方々が県内外で避難生活を続けており、被災地における地域コミュニティの再生や原子力災害に係る風評被害対策など、復興に向けた課題は、被災地域ごとに複雑化・多様化し、山積しております。

県では、東日本大震災及び原子力災害からの復興等に向け、NPO等が行う復興・被災者支援等の取組を支援するため、内閣府の「NPO等の「絆力(きずなりよく)」を活かした復興・被災者支援事業交付金」を活用して、「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」を実施しております。

これまで本事業により、被災者の心のケアやコミュニティ形成支援、風評払拭を含む原子力災害からの復興、復興に取り組むNPO等への中間支援など、NPO等により、被災者同士や被災者と支援者等を結びつける「絆力」を活かした、行政では手の行き届きにくいきめ細かな復興支援活動が展開されました。

本冊子は令和7年度「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」により、復興支援や風評払拭等に取り組まれた17団体の活動実績及び成果についてまとめたものであり、本冊子をより多くの皆様にご覧いただき、これからの復興・被災者支援活動の参考としていただければ幸いです。

引き続き、県では、本県の復興等に向けた活動を行うNPO等を支援する取組を通じて、復興・創生を推進できるよう、本県のきずなの維持・再生に努めてまいります。

結びに、本事業の実施に当たり、御協力いただきました関係者の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、皆様の更なる御活躍を祈念いたします。

福島県企画調整部
文化スポーツ局 文化振興課

ふるさと・きずな維持・再生支援事業とは

1. 目的

本事業では、東日本大震災による原子力災害に係る本県の風評払拭の取組や震災を契機とした本県の復興支援の取組又は本県の復興・被災者支援を行うNPO法人等の取組をサポートする中間支援活動を行うNPO法人等を支援し、NPO法人等によるきめ細やかな復興支援活動等の継続的な実施を通じて、本県のきずなの維持・再生を図ることを目的としています。

2. 補助対象者

NPO等又は当該NPO等が主体となった地方公共団体を構成員に含む協議体

※NPO等とは、特定非営利活動法人、ボランティア団体、公益法人、社会福祉法人、学校法人、地縁組織(自治会、町内会等)、協同組合等の民間非営利組織とします。

3. 補助事業の内容

- (1)被災者等の見守りやカウンセリング、震災により日常生活に支障を来たしている被災者等の支障を軽減するためのサポートといった被災者の心のケア、健康・生活支援に向けた取組
- (2)災害公営住宅等での被災者間や被災者と行政・支援者・地元住民等との連携・交流、被災地域における自立に向けた意見交換、協働等の場づくりといったコミュニティ形成等の復興に向けた取組(ただし、将来の災害の備えや地域振興策に係る取組は除く)
- (3)原子力災害により避難した方々の避難先での交流、帰還に向けた活動、風評被害対策といった原子力災害からの復興に向けた取組
- (4)復興・被災者支援を行うNPO等の取組をノウハウや情報の提供等により支援する取組(中間支援の取組)

上記のいずれかに該当する取組であり、震災を契機とした地域の課題やニーズを的確に捉え、復興支援や被災者支援等に特に効果的であり、事業の実施によりふるさと・きずな維持・再生支援事業の目的が達成されると認められる事業を対象とします。

4. 補助対象経費

人件費、諸謝金、旅費、消耗品費、通信運搬費、使用料及び会場借料、委託料等

5. 補助金額

- (1)補助率:9/10以内 ※1/10以上自己負担
- (2)上限額:10,000千円 下限額:概ね1,000千円
ただし、平成28年度以降、本事業において、補助金の交付を受けたことのある実施主体の上限は9,000千円

6. 補助事業実施期間

令和7年6月1日(日)から令和8年3月31日(火)まで

7. 補助事業募集期間

令和7年3月19日(水)から令和7年4月11日(金)まで

目次

分類	ページ	実施団体名	事業名
コミュニティ形成	P.8	NPO法人 中之作プロジェクト	地域の子どもたちのふるさと整備事業 【minnato なかのさく】
	P.10	特定非営利活動法人 富岡町 3・11 を語る会	多様化した町民のコミュニティの構築と 心の復興が実感できる文化活動推進事業 ～「地域」「世代」「言語」を越えて～
	P.12	双葉郡大運動会実行委員会	継続的な双葉郡大運動会実施のための基盤整備、 及びSNS等情報発信スキルの強化事業
	P.14	特定非営利活動法人 もりの駅まごころ運営協議会	「までいな家」を「みんなの家」に一飯館村民と大学生の 協働で村復興を一步先に進める3つのプロジェクト
	P.16	特定非営利活動法人 相馬はらがま朝市クラブ	「めぐる言葉と、人のめぐり」相双のいまを伝える ライター・イン・レジデンスプログラム
原子力災害からの復興	P.18	一般社団法人 Bridge for Fukushima	東京・赤坂のマルシェで販売！ 高校生ふくしま6次化チャレンジ
	P.20	特定非営利活動法人 日本教育復興連盟	不登校児童生徒を含む福島県浜通りの子どもたちの 学習機会・体験活動の保障に向けた事業
	P.22	学校法人山口学園 ECC国際外語専門学校	つなぐ福島
	P.24	NPO法人 アースウォーカーズ	高校生たちが東日本大震災から14年の福島を語り、 風評被害を払拭するべく福島の復興をアピールする活動
	P.26	特定非営利活動法人 Global Mission Japan	国境を越え、つながる人と人
	P.28	特定非営利活動法人 姫路発 中高生のための 東日本災害ボランティア	福島っ子、関西で、首都圏で大躍動の巻。お越しやす、福島へ！ 郷土の伝統芸能を披露する取組を活かし、震災から14年を越えた「福島の今」や「相馬野馬追」などの「福島の魅力」を発信する。
	P.30	特定非営利活動法人 未来ノチカラ	都市部のワカモノが伝える！福島のイイモノ、ジモノ
	P.32	一般社団法人 あぶくまエヌエスネット	プレイパークで育む希望の絆
	P.34	特定非営利活動法人 インビジブル	FUKUSHIMA inVisible Journey
中間支援	P.36	一般社団法人 オープンデータラボ	「復興支援活動等」に関わる団体の 多様な財源(資源)活用への移行支援
	P.38	特定非営利活動法人 コースター	復興を担うプレーヤー・市民団体を増やすための プロジェクト組成・伴走支援プロジェクト
	P.40	一般社団法人 葛力創造舎	支援者疲れを乗り越えていけ！ 学生が自分自身で地域との継続した関わり方を見出し 走り続けられる仕組みづくり事業

※今年度は「心のケア」に該当する団体はありませんでした

取 組 名	分類
①【minnato なかのさく】 うみあそび	コミュニティ形成
②【minnato なかのさく】 ほんおどり	
③【minnato なかのさく】 みちあそび	
④【minnato なかのさく】 つるし雛飾りまつり	
①「とみおか表現塾」の新講座開設	
②演劇キャンプin 富岡 2025 の全国的展開	
③第4回富岡演劇祭 2025 の開催	
①継続的な双葉郡運動会実施のための基盤整備	
②外部講師による SNS 等情報発信スキルの強化事業	
①「いいたて村の村民食堂」-「食」を通じたいきがづくりと交流	
②「までいな村の自分史」作成事業-「私たちの村づくり」の歴史を復興に活かす	
③「ホラ」から始める長泥復興-村民×大学生による復興アイデアの実現を目指すプロジェクト	
①相双のいまを知るライター・イン・レジデンスプログラム	
②相双のいまを言葉でつむぎ伝える冊子とWebで発信	
③相双の住民と学生がつながりを深める現地交流会	
④相双のいまと関西をつなぐマルシェ交流会	
①高校生による地元産品を使った6次化商品開発プロジェクト	原子力災害からの復興
②風評被害を乗り越えてきた事業者の商品開発動画作成	
①学習会・不登校に関する相談会の実施	
②オンライン学習会・相談会の実施	
③多様な体験活動を通じたキャリア教育支援活動	
①福島を知る	
②福島県視察「スタディツアー」(2泊3日)	
③福島を発信する「ふくしま DAY」	
④福島県銘産品市「ふくしまマルシェ」	
①福島の高校生たちによる風評被害を払拭させる活動	
①福島の復興に力強さと可能性を見つける視察ツアー	
②県民との交流から得た魅力を世界へアピール	
①大阪・関西万博だ!海外からの観光客に京都知恩院三門と八坂神社で「相馬ながれやま踊り Junior の会」がおもてなし	
②首都圏では港区と日光!「みなと区民まつり」にて、東照宮にて福島っ子躍動します。	
③福島っ子、伊勢で京都で伝統芸能を通じて福島県の躍動を表現。福島へお越しやす。	
①首都圏の大学生による農業体験(農活)推進事業	
②飲食店とジモノの絆づくり	
③都市部の大学生による福島県産農産物の販売会	
④都市部の学生と地域の子もたちとの絆づくり	
①プレイパーク活動を実践	中間支援
①展覧会+イベント-FUKUSHIMA inVisible Journey	
②浜通りで活動する人を紹介・発信するインターネットラジオ「こちら福島放送室」	
①資金調達中期計画作成パイロット伴走支援	
②実施取組1の内容を冊子にまとめ、配布・動画配信することによる復興支援活動等への啓発	
③AI・ICT活用による行政の入札・公募情報の発信ツールの開発提供	
①福島復興のプレーヤーと一緒に活動する福島県の復興・課題解決インターンシップ	
②被災地および被災地のスモールスタートを支援する中間支援事業	
③被災者と避難先の市民の垣根を超えた合同文化祭「ふたば・こおりやまふれあい祭り」の実施	
①プロジェクトサポート体制構築	
②プロジェクト実施教材作成	
③実証インターン	

コミュニティ形成

原子力災害からの復興

中間支援



活動団体
紹介

NPO法人 中之作プロジェクト

団体概要

所在地 福島県いわき市中之作字川岸10

TEL 0246-55-8177

E-mail nakanosakuproject@gmail.com

URL <https://nakanosaku.xsrv.jp/>

活動分野 まちづくり

HP



団体紹介

当法人は、東日本大震災による津波被災の影響を受け、いわき市中之作地区で解体が決まった江戸時代の商家を買い取り、住民参加による修復作業（参加人数延べ800人以上）を経て再生し、地域のコミュニティスペースとして活用する実績を持つ団体である。津波被災により途絶えてしまった地域のお祭りなど文化の継承や、地元の子どもたち向けに海辺の暮らしを伝える活動をしている。

地域課題・事業目的

東日本大震災の津波被害による人口減少と漁業の衰退により、中之作地域は港町らしい風景の多くを失ってしまった。私たちは震災後に「港町の風景保存」を目指して設立したNPO法人である。風景とは建物の保存だけでは成立せず、その地域ならではの豊かな暮らしや文化を受け継ぐ人々の生活の場として活用されることが必要である。最近では「空き家を活用して地域に足りないコンテンツを増やす事業」と並行して「地域の未利用空間を活用した豊かな生活創造事業」にも着手し、既存施設などを活用したエリアリノベーションを目指している。

事業内容・実績

取組1

●取組内容/地域の子どもたちの遊び場として活用する方法の普及を目指す。波の少ない港の水面はマリンスポーツ初心者かSUPやカヤックなどの練習をするのに最適な場所であり、海遊びのルールや地域の自然環境を学ぶチャンスにあふれた場所でもある。まずは地域の子どもたちに自分たちの海を体験してもらうことを優先し、中之作の暮らしの魅力度を高めていく。小学校の夏休み期間中に「マリンスポーツ体験教室」を港湾内で開催。

●対象者/いわき市民

●活動地域/いわき市

●実績/7月27日 江名港

8月3日 中之作港

地元小学生向けの「親子SUPカヤック体験教室」の開催。

小学生親子10組 約22名が参加。

江名港・中之作港で各1回開催。

ライフセーバーさんの海の安全教室を聞いた後、通常は遊べない港の中でSUPやカヤックを親子で楽しんだ。

【うみあそび】

港は誰のものかを考える取り組みは、未利用空間を豊かな子育て環境に発展させる可能性に溢れている。



取組2

- **取組内容**／震災で流出してしまった盆踊りの資材を再整備し、再び地域の恒例行事となることを目指す取り組みである。地域の伝統行事を再開することで、地元の子どもたちは櫓が上がって演奏することを目指しお囃子の練習に参加する。かつて世代を超えて受け継がれていた地域のお祭り文化が高齢化により消滅してしまう前に、今の子どもたちに受け継がれていく。
- **対象者**／江名地区子ども
- **活動地域**／江名地区
- **実績**／8月1日 盆踊り大会法被作りワークショップ開催
場所：折戸集会所 地元の子ども 15名参加
地元の子どもたちと一緒に盆踊り大会用の法被デザインを考えた。
8月1、4、6、8日 盆踊り大会お囃子練習へ子どもたちと参加 4回 地元の子ども 15名参加
地元お囃子会の方たちにお囃子の太鼓を教わった。
8月13日盆踊り本番 子ども15名参加 練習の成果を披露した。



【ほんおどり】

地域の伝統文化を子どもたちと一緒に次の世代へ受け継ぐ取り組みは、彼らの「ふるさとづくり」となることを期待している。



【みちあそび】

生活道路から通過車両を排除する取り組みは、地域住民の共有地として管理運営していく道路に発展させていきたい。

取組3

- **取組内容**／【重複する道路は誰のものか】を住民と一緒に考えるにはきっかけが必要で、歩行者優先の生活道路整備を目指すには短時間の道路封鎖を試験的に実施することが重要だと考える。かつてこの地域で十五夜の晩に行われていた「お月見ドロボウ」を真似たみちあそびイベントを地域の子どもたちを対象に開催。
- **対象者**／いわき市民
- **活動地域**／いわき市
- **実績**／10月25日 生活道路を封鎖しての歩行者イベントの実施。約30世帯参加(雨天の為、参加者減少)。あいにくの雨だったが、雨の合間を縫って道にチョークでお絵描きしたり、シャボン玉を飛ばしたりした。

取組4

- **取組内容**／地元の裁縫教室で制作した作品の展示会は震災前から続くイベントである。かつては地域の軒先に作品を展示していたが、震災で港町に連続していた軒先空間が無くなってしまい、現在は当NPOが管理運営する古民家での屋内展示がメインとなっている。港町の町並み再生が進み、軒先の雛飾りが春の風に揺れる風景の再現を目指している。
- **対象者**／いわき市民
- **活動地域**／いわき市
- **実績**／1月31日～2月5日 つるし雛飾りまつりを開催。市内外より約2,500名が来場 1月31日、2月1日、2月5日に撮影会を実施、4組の方が参加し撮影会を楽しんだ。

事業成果

本事業では、海・祭り・道路・文化の4分野で、震災後に失われつつあった地域体験や文化を子どもたちへつなぐ取り組みを進めた。うみあそびでは、海で遊ぶのが初めてという高校生がボランティアとして参加し、地域の海への理解が広がった。盆踊りでは、津波で途絶えていた行事に小学生が喜んで参加し、文化継承の手応えが得られた。みちあそびでは道路の使い方を住民と考える対話が生まれ、生活道路のあり方を共有する機会となった。つるし雛飾りまつりでは、清航館での開催が盛況だった一方、裁縫教室の担い手の高齢化や地域の子どもが少なくなっているという課題も明確化している。これからも、地域文化や地域活動を未来へつなぎ、継続していきたい。

今後の活動展望

【うみあそび】はイベントに協力してくれるカヤック団体が主体となって通年のカヤック教室開催を目指す。【ほんおどり】は開催に必要な備品類を揃え、毎年開催に協力する。【みちあそび】は生活道路の交通量が減ることを目的としており、毎週末に車の通行を制限する遊戯道路化を目指す。数年前から様々な形で開催している【minnato なかのさく】は地域の子どもたちが参加しやすい仕組みを整備してこれからも継続する。

多様化した町民のコミュニティの構築と心の復興が 実感できる文化活動推進事業～「地域」「世代」「言語」を越えて～

特定非営利活動法人 富岡町 3・11を語る会

団体概要

所在地 福島県双葉郡富岡町中央3-53 さくらモールとみおか内事務所1号

TEL 0240-23-5431

E-mail kataribe_office@tomioka311.com

URL <https://www.tomioka311.com/>

活動分野 社会教育・まちづくり・文化芸術スポーツ

HP



団体紹介

福島の東日本大震災・原子力災害の現状を語り伝え、課題である「失われた人のつながり」を創ることを目的として活動している。人が繋がる時に互いの考えや思いを伝える「表現力」は、文化活動によって生み出されるものであり、コミュニティを構築する原動力と考える。生活サービスが整備されていく中で、住民の「心の復興」が実感できる文化活動を、地域の手で継続させる事で、町民の「つながりの強化」が実現すると考える。

地域課題・事業目的

被災後14年目、ほぼ町の全域が避難指示解除されようとしている中で、町内居住者は、帰還者、移住者と多様化している。この現状を把握し、帰還者と移住者間、居住者の親子間、世代間などが、交流により心のケアが図れるような活動が必要である。「町を知る」「人を知る」伝承活動と共に、表現力を育成強化し、人と人が心をつなげる事業を展開する事は、コミュニティ形成の実現に欠かせないものと考えます。

事業内容・実績

取組1

●取組内容/「とみおか表現塾」の新講座開設(手話教室)

大人の音読教室(月2回)対象は町民、地域住民。

子どもの手話教室(月1回 児童クラブ)富岡小学校児童

表現鑑賞会の開催：手話を取り入れた表現を実施。

活動の成果発表会：富岡町芸術祭で音読などの演目を披露した。

●対象者/富岡町内居住者(双葉郡内居住者)その他

●活動地域/富岡町

●実績/大人の音読教室を毎月2回開催し、近隣町村を含め毎回16名が参加。手話表現教室は毎月1回開催し町民10名が参加。子どもの手話教室も毎月1回実施し、放課後児童クラブ18名が参加した。加えて表現鑑賞会を開催し、ろう者講師による手話・国際手話の学習機会を提供した。

取組2

●取組内容/「演劇キャンプin富岡2025」

令和7年9月13日(土) 14日(日) 15日(月)

富岡町文化交流センター学びの森(全館貸し切り)

参加者：80名

活動状況：「ミュージカル」「朗読」「殺陣」「英語劇」「ノンバーバル」の5講座を開設し、専門の講師を招聘した。2日目の早朝のバスツアーも30名が参加して、14年経った被災地の現状を真剣に見学し、表現活動に生かそうとする姿が見られた。

●対象者/全国(町内外、県内外)表現活動に興味関心のある人

●活動地域/富岡町内(実施場所)

●実績/9月13日～15日に富岡町文化交流センター学びの森を会場に講座を開催し、演劇、朗読、殺陣、英語劇、ノンバーバル表現を専門家から学ぶ機会を提供した。講座および震災学習バスツアーには県内外から10代～80代までの参加があり、延べ80名が参加した。参加者同士の交流が促進され、世代・地域・言語を越えた新たなコミュニティ形成につながった。



第4回富岡演劇祭
エンディングセレモニー

取組3

●取組内容／「第4回富岡演劇祭」

令和7年12月20日、21日

富岡町文化交流センター学びの森(全館貸し切り)

大・小ホール、和室、エントランスで演劇、朗読、講談、大道芸など様々な地域で活動してる団体が上演。オープニングセレモニーには地元の小学生が参加した。

2日間で延べ500名が来場した。

●対象者／全国(町内外、県内外)演劇を創る観る人、興味関心がある人

●活動地域／富岡町内(実施場所)

●実績／12月20日・21日の2日間、富岡町文化交流センター学びの森を会場に第4回富岡演劇祭を開催した。富岡を舞台にした町民劇の上演や、高校生による「銀河鉄道の夜」の発表、ドラム演奏体験を実施したほか、地域交流カフェを併設し、地産地消をテーマとした演劇祭として地域交流の促進を図り、2日間で延べ500名が来場した。

事業成果

【課題】複合災害によってコミュニティの失われた町に、新たなコミュニティを創る。

【実施した活動】音読教室、手話教室、演劇キャンプ、演劇祭などの文化活動

【成果】幅広い年齢層の町民が、表現することから生まれる「人の繋がり」に気づき、その大切さと楽しさを知ることができた。各教室への参加状況から、地域(他町村)と年齢層の広がり(80代～10代)が見られた。富岡町文化芸術祭、富岡演劇祭などで、表現活動参加者が積極的に発表する姿と、それを応援する町民の姿が見られた。

【新たな課題】多様化している町民(世代、職業、生まれ育った地域など)のニーズに合った活動内容を考える。町の主催する文化活動との連携を図る。

【得られた連携】町生涯学習課、町文化団体連絡協議会、町教育委員会、日本演劇教育連盟、県高校演劇連盟、県聴覚障害者協会 ※会場の提供、広報の協力、運営スタッフの参加

今後の活動展望

文化活動によって実現する新しいコミュニティの成立を目指し、さらなる事業の展開を考えたい。

①富岡町における表現活動ワークショップの実施(「演劇キャンプ in 富岡」と地域の教育との連携)

②「富岡演劇祭」の持続可能な組織づくりの取組

継続的な双葉郡大運動会実施のための基盤整備、 及びSNS等情報発信スキルの強化事業

双葉郡大運動会実行委員会

団体概要

所在地	福島県双葉郡富岡町内
E-mail	futabagun.daiundokai@gmail.com
URL	https://www.instagram.com/futabagun.daiundokai/
活動分野	まちづくり・文化芸術スポーツ

Instagram



団体紹介

我々は双葉郡8町村の中で活動する人々が集まった民間の任意団体です。震災前、運動会は地域の地域交流の核となるような存在でした。震災前の各町村の運動会の良いところを引継ぎつつ、震災後人口が減少した双葉郡8町村が協力し合うことで新しい形の「地域交流の核」をつくっていききたいと思っています。運動会がきっかけとなり地域への愛着が芽生えることで、長く楽しくこの地域に住み続けられる人を増やしていきたいと思っています。

地域課題・事業目的

東日本大震災・原子力災害という複合災害を被った双葉郡8町村(大熊町、双葉町、富岡町、浪江町、楡葉町、広野町、川内村、葛尾村)において、避難を余儀なくされた住民の「故郷離れ」、故郷に帰還しても帰還した家族・友人の少なさによる孤独感、流入する移住者の既存コミュニティへ溶け込む難しさが顕在化している。については、本事業によって避難する住民が故郷に赴く機会を創出し、老若男女を問わず帰還した住民と移住者が垣根を超えて交流し、上記課題の解決をはかることが目的である。

事業内容・実績

取組1

- 取組内容／2025年6月14日(土)第1回双葉郡大運動会を開催。チーム対抗戦。競技は、障害物競走、綱引き、玉入れ、借り人競争、宝拾い、リレーを想定。200名の参加を目指す。参加費は500円(保険料)。双葉郡8町村の各役場と教育委員会に後援を依頼。その他ふたばエイトにも協力を依頼。昼食は各自用意。キッチンカーも手配。運営の他、司会や音響、撮影、審判、看護の派遣を専門業者に依頼。運動が苦手な方も参加できる競技を取り入れる。運動会以外にも双葉郡に関わるきっかけとなるようなコンテンツのテントやブースを設ける。



第1回双葉郡大運動会 集合写真

震災前、運動会は地域の地域交流の

核となるような存在だった。震災前の各町村の運動会の良いところを引継ぎつつ、震災後人口の減少した双葉郡8町村が協力し合うことで新しい形の「地域交流の核」をつくっていききたい、と考えているため、震災前の運動会・参加者へのインタビューを実施。冊子を発行した。

- 対象者／元々双葉郡8町村に居住し、東日本大震災・原子力災害という複合災害により避難生活を余儀なくされている住民、避難先から帰還した住民、震災後双葉郡8町村に移住した住民、県外からの移住希望者、双葉郡に関心のある方、その他当事業の趣旨に賛同する人々に加えて、地域コミュニティ創生の担い手となる個人・団体とする。
- 活動地域／双葉郡全域

●実績／【第1回双葉郡大運動会について】

日付：2025年6月14日(土)

会場：Jヴィレッジ全天候型練習場

内容：運動会の開催 スタッフ含む約200名が参加

主催：双葉郡大運動会実行委員会

後援：広野町/広野町教育委員会/檜葉町/檜葉町教育委員会/富岡町/富岡町教育委員会/川内村/川内村教育委員会/大熊町/大熊町教育委員会/双葉町/双葉町教育委員会/浪江町/浪江町教育委員会/葛尾村/葛尾村教育委員会

協力：福島大学地域未来デザインセンター

【インタビュー冊子】

日付：7月～3月

場所：双葉郡全域

内容：参加者へのインタビュー（属しているコミュニティ、運動会に期待すること、移住してきたきっかけ、移住して困っていること、運動会で実際に繋がれた人・こと、満足だったこと、参加のきっかけ）震災前の運動会を知る方へのインタビュー（震災前の日常、震災後の暮らし、今の暮らし（今回の運動会に参加して思ったこと）、運動会に期待すること、震災前の運動会の内容、震災前のコミュニティの状態や関わり（行政区、消防、学校、仕事…など）、2,500部を発行。

取組2

- 取組内容／双葉郡内におけるコミュニティ創生事業の担い手を増やすことを目的に、双葉郡内でコミュニティ創生事業に従事する、もしくは関心のある団体・個人を対象に、インスタグラム等SNSにおける情報発信講座を開催する。

講師の先生は石山佳那氏。長い期間、双葉郡の情報を発信し続けていること、双葉郡ならではの情報を見つける・発信することに長けていること、飲食店の情報だけでなく、復興状況に関する情報、地域のイベント・お祭りの情報、町の風景や地域コミュニティの様子、日常のこと

など幅広く適切な情報を発信していた。2019年から浪江町地域おこし協力隊として活動。運用していたインスタグラムアカウント（@namie.machi2021 <<https://www.instagram.com/namie.machi2021/>>）は、双葉郡内の情報を幅広く紹介しており、5,800名以上のフォロワーを誇る。現在、中土佐町地域おこし協力隊として活動されており、今年4月から開始したアカウント（@naka.kyoryokutai2025 <<https://www.instagram.com/naka.kyoryokutai2025/>>）は、すでにフォロワーが400名超え。

- 対象者／双葉郡内におけるコミュニティ創生事業の担い手を増やすことを目的に、双葉郡内でコミュニティ創生事業に従事する、もしくは関心のある団体・個人

- 活動地域／双葉郡全域

- 実績／2025年10月17日(金) 第1回SNS情報発信講座@CREVAおおくま
スタッフを含む15名が参加

2026年1月20日(火) 第2回SNS情報発信講座@双葉町産業交流センター中会議室
スタッフを含む20名が参加



SNS情報発信講座 講座の様子

事業成果

①運動会とインタビュー事業

運動会当日は、スタッフを含む約200名が参加。大人から子どもまで協力し、本気で運動会を楽しんでいただいた。今後も運動会を続けていくため、そして運動会に関わる人を増やすため、運動会参加者と震災前の運動会を知る方々へインタビューを実施、1冊の冊子にまとめた。

②SNS情報発信講座

この地域の情報量を増やし、日常のことを日常的に発信できる人が増えることを目的とし、双葉郡内でコミュニティ創成事業に従事する、もしくは関心のある団体・個人を対象に、インスタグラム等SNSにおける情報発信講座を開催。講師に石山佳那氏を迎え、2回に分けて講座を実施。約35名が参加し、写真の撮り方や投稿ネタの見つけ方、さらに、変更になったアルゴリズムなどを説明いただき、SNSの交換、参加者間や石山氏との交流も楽しんでいただいた。

今後の活動展望

今後は運営体制を整え、自分たちで継続できる範囲へ規模を縮小し、さらに運動会にテーマを設けることを検討。震災前の運動会には、「防災」の観点から防災要素を組み込んだ競技が存在した。インタビューを通して繋がれた震災前の運動会を知る方々、県危機管理部災害対策課などと連携し運動会を継続する予定。運動会がきっかけとなり地域への愛着が芽生えることで、長く楽しくこの地域に住み続けられる人を増やしていきたい。

「までいな家」を「みんなの家」に一飯館村民と大学生の協働で 村復興を一步先に進める3つのプロジェクト

特定非営利活動法人 もりの駅まごころ運営協議会

団体概要

所在地 福島県相馬郡飯館村関根字谷地向169-9

TEL 024-548-8026

E-mail magokoroitate@gmail.com

URL <https://magokoroitate.org/>

活動分野 まちづくり

HP



団体紹介

産地形成促進施設「もりの駅まごころ」の円滑な運営を通じ、農産物や加工品の販売を軸に地域資源を活かした情報発信と交流を推進する。農業を中心とした地域産業の振興を図り、地域住民の生活向上と地域の活性化、都市農村交流の発展に寄与することを目的とする。

地域課題・事業目的

震災から14年、飯館村は村内最後の帰還困難区域「長泥地区」の(一部)指定解除を経て、全村での新たな村づくりの段階に入った。本事業は、村営施設「までいな家」を舞台に、福島大学生と協働で、①「食」②「手仕事」③「集落支援」の3プロジェクトを実施する。活動を通じて、村の「第6次総合振興計画」が示す復興の課題に村民と学生が協働で取り組み、帰村/未帰村など多様な背景を持った村民や、村の復興を支える国内外の若い支援者が「村との関わりをさらに深め一人ひとりが村の復興に関わる」ことを目指す。

事業内容・実績

取組1

- 取組内容/「村民食堂」は、高齢者の得意分野である「食」を通じて村民や支援者が集い、語り合う場として実施した。村民と福島大学学生が協働し、月1回「までいな家」等で一汁一菜を基本とした食堂を開店(概ね11時~14時)。今年度は通常の村民食堂を10回開催し、延べ378名が来場した。さらに、他地区や村外で飯館の食文化を伝えるスピノフ企画を5回実施し、延べ約270名が参加するなど交流の広がりを生んでいる。
- 対象者/飯館村の帰村者・在住高齢者、村に通う村民とその家族、村職員、福島大学学生、留学生等、飯館村との関わりを持つ多様な主体。

●活動地域/飯館村

- 実績/令和7年6月から3月まで月1回(計10回)村民食堂を実施(延べ304名)主にまでいな家及び長泥コミュニティセンターで、村民と福島大学大黒ゼミ学生が協働し、一汁一菜を基本に地元食材や手作り漬物を提供した。あわせて柏餅づくり、台湾キッチン企画、盆踊りでの提供等スピノフ3回も実施し、多世代交流の場を継続した。



学生と村民が「献立」を通じて対話する村民食堂の様子

取組2

- **取組内容**／昨年度事業で明らかになった村民の歴史や手業の価値を、より多くの村民と共有するため、本年度は「まていな村の自分史」作成に取り組んだ。学生がチームで村の歴史調査と村民取材を行い、直売所や女性の活躍等をテーマに記事を作成。原稿はすでに完成しており、広報誌掲載に向け調整中（次年度掲載予定）。本取り組みは、村民の協力により、当初予定を超えて取り扱うべきテーマや資料が集まっており、今後冊子化を目指す。
- **対象者**／震災前から飯舘村に居住し、村づくりの歴史を担ってきた村民、福島大学大黒ゼミ学生、広報誌を通じて記事を読覧する村民等。
- **活動地域**／飯舘村
- **実績**／令和7年6月から11月にかけて、震災前からの村づくりを振り返る聞き取りを実施した。福島大学大黒ゼミの学生が同席し、村民へのインタビューと歴史調査を行い、記録整理と記事原稿を作成した。テーマは①直売所や加工食品づくりと女性の活躍、②村民体育大会による健康づくり、③国際交流による村づくり等で、計11本の原稿を作成。原稿は村へ提出済で、広報誌掲載に向け調整中。

取組3

- **取組内容**／集落の再生は復興の基礎との考えのもと、長泥住民と福島大学生、そして村への移住者が協議を重ね、村や県、そして国の内外から多くの人を長泥地区に招き、その課題と魅力とともに感じてもらうイベントを企画／実現した。より多くの人に長泥の将来を一緒に考えて欲しいという集落のみなさんの願いに応えようとする企画であり、企画者ばかりでなく、台湾からも含め、特に若い世代が数多く参加するイベントとなった。
- **対象者**／長泥地区を中心とする飯舘村民、福島大学大黒ゼミ学生、台湾研修生を含む若者、長泥集落の復興に関心を持つ村内外の関係者。
- **活動地域**／飯舘村長泥地区
- **実績**／長泥集落から寄せられた「将来を共に考え、実現を支えてほしい」との声を踏まえ、10月18日に長泥コミュニティセンターで「青空焼肉レストラン」を開催。村民体育大会の再現、地元食材によるBBQ、ランタン点灯を実施し、台湾研修生を含む60名超が参加。対話と実践を通じて長泥の将来を考える機会を創出した。



村民・学生・台湾研修生が参加した縄もじり競争（村民体育大会）

事業成果

本事業は、「食による交流」「村づくりの歴史の記録」「集落再生の実践」を柱に実施した。村民食堂は継続開催により村民の中に定着し、10年ぶりに再会を果たした住民もいるなど、地域の人々が自然に集う場として機能している。福島大学大黒ゼミの学生が関わることで、高齢者が多い村民にとって励みや希望となり、若者に任せきりにせず自分たちも関わろうという意欲につながった。学生が企画運営を担い、村民が食文化や地域の知恵を伝える関係は高齢者の生きがいづくりにも寄与した。また、大黒ゼミは15年にわたり関係を継続しており、村との交流の知見がゼミ内に蓄積され、OB・OGも活動に参加するなど関係は広がっている。こうした取組は、震災後に分断された地域のつながりを回復し、復興を支える人の輪を広げる実践となっている。

今後の活動展望

当協議会の復興活動の柱である「食を通じた復興」を具体化・定例化した「村民食堂」を継続開催するとともに、村内集落（とりわけ避難指示解除が遅れた長泥地区）機能の強化へ向けた集落との共同活動の目に見える成果を目指す。また、長年の活動を通じて生まれた、村民、移住者、大学生、さらには国境を超えたネットワークを活かし、「行ってみたい」「活動してみたい」と思える復興支援企画を企画化する。

「めぐる言葉と、人のめぐり」相双のいまを伝える ライター・イン・レジデンスプログラム

特定非営利活動法人 相馬はらがま朝市クラブ

団体概要

所在地 福島県相馬市中村字塚田62-72

TEL 0244-26-9127

E-mail info@somamirai.com

URL <https://www.facebook.com/somamirai>

復興支援センター MIRAI
(運営：特定非営利活動法人 相馬はらがま朝市クラブ)

Facebook



活動分野 まちづくり・観光振興

団体紹介

「相馬はらがま朝市クラブ」は、地域の自主的・主体的なまちづくり活動を育み、各種団体の連携を深め様々な地域復興活動の拠点施設として設立。産業の再生、文化継承、地域活性を目的に、被災地における事業者データベースやマップ、オンラインメディアの制作、被災者や地域住民のコミュニティ創出、中高生向け地域学習プログラムの企画運営等を行っている。

地域課題・事業目的

東日本大震災から14年が経過し、関西での関心低下に加え、相双地域内でも復興状況の違いから近隣市町の実情が共有されず、地域内外で風化が進んでいるのが現状である。

本プログラムは、相双の住民と関西の大学生が直接交流し、「福島のいま」を言葉で伝え合い、記録に残す場を創出する。対話を通じて、地域特有の課題や福島産品への理解を深め、福島を継続的に応援してくれる新たな支援者・理解者を増やすことを目的とする。

事業内容・実績

取組1

●取組内容／京都・大阪・神戸・滋賀に住む参加学生12名が、相馬市・双葉町に6名ずつ、4泊5日で滞在。相馬市では「食」をつなぐ人々に、双葉町では「記憶」をつなぐ人々の声を聴き、交流を通じて、「相双のいま」への理解を深めた。その中で住民の言葉を一言一句書き起こし、人々の暮らしや想いを残す「聞き書き」原稿の執筆を行った。

●対象者／関西地域の大学生・相馬市／双葉町の住民

●活動地域／相馬市・双葉町

●実績／事前学習：8月10日(参加学生12名)

●合宿執筆プログラム(双葉チーム)：8月20日～24日(参加学生6名)

●合宿執筆プログラム(相馬チーム)：9月1日～5日(参加学生6名)

双葉／相馬それぞれ3人の語り手の方々と交流し、インタビューを行い、伺った言葉のすべてを丁寧に文字起こし、「聞き書き」原稿へとまとめた。



語り手の言葉を書き起こす中でさらに相双地域への理解を深め、聞き書きとエッセイを執筆した

取組2

- 取組内容／参加学生が執筆をした原稿を綴った冊子「めぐる言葉」を作成。育った風景、大切にしてきたこと、日々の暮らしなど語り手の言葉のままに記録した「聞き書き」原稿と、「聞き書きの出会いがもたらしたもの」をテーマに書き起こした「エッセイ」をまとめている。地域の現状や住民の想いを広く発信するため、Webマガジン「note」にも掲載した。
(https://note.com/sousou_writer)

Webマガジン
「note」

- 対象者／関西地域の大学生
- 活動地域／相馬市・双葉町
- 実績／学生が執筆した「聞き書き」「エッセイ」の原稿をまとめた冊子「めぐる言葉」
 - ・刊行：2月1日(フルカラー、32ページ、7000部)
 - ・送付先：立命館大学、京都大学、同志社大学、大阪大学、関西大学、福島県大阪事務所、福島県内道の駅、公共施設等

取組3

- 取組内容／参加学生全員で、相馬市・双葉町をそれぞれ訪れ、双葉／相馬それぞれ3人の語り手の方々と再会・交流。住民の方との再会と夏には訪れなかった一方の地域に訪れることで、参加学生は相双地域の復興の歩みの違いと課題や想いの共通点を感じ、それらをもとに「エッセイ」を執筆した。
- 対象者／関西地域の大学生・相馬市／双葉町の住民
- 活動地域／相馬市・双葉町
- 実績／現地交流会：12月6日～7日(参加学生11名)
6日に相馬市、7日に双葉町を参加学生全員で訪れ、夏にインタビューをした住民の方々と再会・交流した。

取組4

- 取組内容／参加学生が綴った言葉たちをまとめた冊子「めぐる言葉」のお披露目とともに、福島県・相双地域の産品が並ぶマルシェを開催し、関西地域の方々に、参加学生が「相双地域のいま」を直接声で届けた。学生たちが、住民から受け取った言葉から何を感じ、何を問われたのか。ニュースでは見えにくい福島を、聞き書きのパネル展示やトークショーを通じて、丁寧に伝えた。
- 対象者／関西地域の大学生・関西地域にお住まいの方
- 活動地域／京都府京都市
- 実績／マルシェ交流会：3月7日(参加学生11名)
大垣書店京都本店イベントスペースにて、聞き書き冊子のお披露目・パネル展示・福島産品をPRするマルシェを開催。250人が来場し、500冊を配布。



完成した冊子を京都で配布しながら福島の今を参加学生が丁寧に伝えた

事業成果

東日本大震災から14年が経ち、地域内外で震災の風化が進むという課題に対し、言葉を記録として残す場を創出したことで、関西における福島への関心を喚起するとともに、相双地域内でも伝え残すことの意義への共感が広がった。語り手自身が避難先で冊子を配布するなど、自ら経験や地域の想いを伝える動きも生まれている。また、本取組をきっかけに相馬市と双葉町の語り手同士が20数年ぶりに再会し、交流が生まれるなど地域間のつながりも広がった。冊子は住民から住民へと手渡され、地域内においても復興や暮らしへの理解と共感が広がっている。さらに、関西地域では福島の情報を知りたくても手に入りにくい、福島の現在の「暮らし」を知りたいというニーズがあることが明らかになった。一方で、震災の経験や復興状況の違いを丁寧に伝える難しさも浮き彫りとなり、粘り強く継続的な対話と発信の場づくりが今後の課題である。

今後の活動展望

冊子「めぐる言葉」の活用を広げ、大学・書店・地域イベント等での展示や対話の場を継続する。また、参加学生による発信や再訪の機会を重ね、関西と相双地域を結ぶ関係人口の拡大を図る。聞き書きを通じて生まれた学びを次世代へ継承し、相双の現状理解と福島を応援する動きを持続的に育てていく。

東京・赤坂のマルシェで販売！ 高校生ふくしま6次化チャレンジ

一般社団法人 Bridge for Fukushima

団体概要

所在地 福島県福島市五月町2-22

TEL 024-502-7121

E-mail info@bridgeforfukushima.org

URL https://bridgeforfukushima.org/

活動分野 社会教育・まちづくり・災害救援・国際協力・子どもの健全育成・その他

HP



団体紹介

東日本大震災の緊急支援を目的に2011年5月に設立。現在は「正解のない課題に挑む人材を創り続ける」をミッションに掲げ、主に教育系の分野で活動している。県教育委員会や自治体と連携し、県内約20の高校で「総合的な探究の時間」のコーディネーターや講師を務めるなど公教育の現場も含めて、高校生や大学生の実践的な学びを伴走支援している。

地域課題・事業目的

2025年の風評被害に関する消費者意識の実態調査（消費者庁）によると、食品の産地が福島県であるために購入をためらう消費者が前年より1.3ポイント増加。「食品中の放射性物質の検査が行われていることを知らない」割合も前年比3.5ポイント増の65.0%に。県産品への理解不足は続いている。風評防止策としては、食品の安全に関する情報提供（41.7%）や製品の魅力に関する情報提供（27.0%）を行うべきとの指摘が多い。本事業は風評払拭のため、首都圏消費者に県産品の安全性と魅力を高校生が直接伝えるものである。

事業内容・実績

取組1

●取組内容／福島県内の農業高校など複数校で、地元特産品を活用した高付加価値の6次化商品開発プログラム（年間を通じた授業）を実施した。商品企画から製造・販売・決算までを生徒自身が担い、経営やマーケティングを実践的に学んだ。首都圏向けのデザインや発信を工夫し、2026年2月に東京・赤坂ヒルズマルシェで販売。購入者アンケートを通じて風評への意識調査も行った。

●対象者／県内の農業高校生および首都圏の消費者（東京・赤坂のマルシェ来店者）

●活動地域／福島県内および東京・赤坂のヒルズマルシェ

●実績／●参加高校

福島明成高校、相馬農業高校、修明高校の合計3校5クラス

●年間授業スケジュール

6月：商品企画

7月：フィードバック会

8月：事業計画

9月：試作・計画発表会

10月：計画改善・修正

11月：販売計画

12月：試験販売（オンライン）

1月：商品改善・東京販売会準備

2月20～22日：東京販売会・決算発表

3月：振り返り



東京販売会の様子

取組2

- **取組内容**／原子力災害後、風評被害に直面しながら6次化商品を開発してきた事業者の取組を、高校生向け動画教材として制作した。商品特徴やターゲット、思い、成功・失敗談、デザイン、風評問題、将来像、高校生への助言を紹介。視聴を通じて風評への理解を深め、商品開発の発想力向上を図った。動画は実施校に加え、県内外の農業・商業・普通高校にも広く提供した。
- **対象者**／福島県内の事業者4名および福島県内で商品開発に取り組む高校生たち
- **活動地域**／福島県内
- **実績**／動画「ふくしま発! プロに学ぶ、商品誕生のヒミツ」の制作&提供。南会津産のクロモジを使った和精油を開発する「一十八日」の宝力絢さん、富岡町のツツジの花酵母から作るクラフトカクテルを開発した渡邊優翔さんなど、県内の4名（漁業および林業関係者や事業者）の方にインタビュー取材して5～8分程度の動画を4本制作。それらを団体のYouTubeチャンネルにアップして高校生に共有している。



動画「ふくしま発! プロに学ぶ、商品誕生のヒミツ」

事業成果

東京販売会では、生徒が交替で店頭に立ち、商品ストーリーや特徴を説明し、県産品の安全性や魅力を直接PRできた。来場者アンケート(54名から回答)では、県産品のイメージを聞いた項目で「美味しい」が前年の60%から66%に、「流通している食品は検査済み」が29%から42%に上昇しており、風評払拭の進捗を示す結果となった。商品開発の授業では、パッケージデザイン会社や漬物製造業、地元銀行などを講師に迎え各分野の専門家たちと連携した。様々な指摘を元に、生徒が地元の良さを自分の言葉で語れるようになった点は大きな成果である。一方で、現在の年間プログラムは参加のハードルが高いため、短期プログラムの開発が新たな課題となった。また動画制作では、昨年の農産物に加え、今年度は水産物や林産物の事業者へも取材を行った。これにより地域内の異業種との新たな連携が生まれ、次世代人材の育成を地域ぐるみで支援する体制に繋がった。

今後の活動展望

本プログラムはアクティブラーニングを通じて、高校生が現実的な課題を自ら設定し、考え行動する力を育む取組である。復興も含めた福島県の未来を担う人材に不可欠な資質を養うものでもあるため、今後も継続的に実施したい。加えて、授業提供だけでは限界があるため、動画教材を充実させ、商品開発を通して福島県産品の魅力を理解し発信できる高校生の裾野を広げていきたい。

不登校児童生徒を含む福島県浜通りの子どもたちの 学習機会・体験活動の保障に向けた事業

特定非営利活動法人 日本教育再興連盟

(団体通称名：NPO 法人 ROJE)

団体概要

所在地 東京都渋谷区代々木5-62-1

E-mail fundraising@roje.or.jp

URL https://kyouikusaikou.jp/

活動分野 災害救援・子どもの健全育成

HP



団体紹介

当団体は、現場主導の「ボトムアップ型の教育改革」を目指し設立された。大学生を主体として、教育にかかわる多様な事業を展開している。特に東日本大震災以降は、福島県の子どもたちを対象とした学習支援やキャリア教育、市内小中学校における学校ボランティアなどを現在に至るまで継続的に行っている。また、各地の災害発生時には、子どもたちの心のケアや保護者への支援等を実施している。

地域課題・事業目的

本事業では、福島県の浜通りの子どもたちの学習機会の保障及び、体験活動を通じたキャリア教育機会の保障を目的としている。

原発事故の影響を受けた地域では、子どもたちが前向きにキャリアを描きづらい状況にあることが課題として指摘されてきた。また、原発事故に伴う転居の増加等により不登校となった子どもや他地域の不登校の子どもが個別の手厚い指導を求めて旧避難地域の小規模となった学校に流入することで不登校児童生徒の増加も課題となっている。そうした不登校傾向にある子どもの心のケアや学習機会の保障も重要な課題である。

事業内容・実績

取組1

●取組内容／月1回を目安として、南相馬市及び双葉郡大熊町にて、福島県の浜通りの小中学生・高校生を対象とした学習会を実施した。学習会では主に県外の大学生が、子どもたちが持参した教材や宿題などの学習を見守り、質問対応するなどのサポートを行った。中高生に対しては、普段の学習方法や進路に関して大学生に相談できる場も設けた。また、参加者の保護者からの学習に関する相談にも専門家が対応した。

●対象者／福島県の浜通りの小中学生・高校生

●活動地域／福島県南相馬市、双葉郡大熊町

- 実績／
- 8月7日(木) 南相馬市原町生涯学習センター、学習会・不登校に関する相談会(中高生4名)
 - 9月27日(土) 南相馬市民情報交流センター、学習会・不登校に関する相談会(小学生1名)
 - 10月25日(土) 南相馬市民情報交流センター、学習会・不登校に関する相談会(小学生2名)
 - 11月29日(土) 南相馬市民情報交流センター、学習会・不登校に関する相談会(小学生5名)
 - 11月30日(日) 南相馬市民情報交流センター、学習会・不登校に関する相談会(小学生4名)
 - 12月21日(日) 南相馬市民情報交流センター、学習会・不登校に関する相談会(小学生14名)
 - 1月4日(日) 南相馬市民情報交流センター、学習会・不登校に関する相談会(小学生1名)
 - 2月15日(日) CREVAおおくま、学習会・不登校に関する相談会(小学生9名)
 - 2月16日(月) 原町高校、学習会・不登校に関する相談会(高校生19名)
 - 3月14日(土) 南相馬市民情報交流センター、学習会・不登校に関する相談会(小学生3名)



学習相談会の様子

取組2

- 取組内容／特に不登校の子どもなど対面で参加しづらい子どもや、対面で参加した子どもの中でも希望する者を対象に、オンラインでの学習会を行った。取組1と同様、県外の大学生が子どもたちと丁寧にコミュニケーションをとって信頼関係を構築しつつ、彼らの学習を見守り適宜質問対応するなどのサポートを行った。取組1、3よりも各回の参加者が少人数であることから、個別のニーズに応じた細やかな対応をとることができた。
- 対象者／福島県の浜通りの小中学生・高校生
- 活動地域／オンライン
- 実績／12月11日(木) オンライン オンライン学習会・相談会(小学生2名)
12月18日(木) オンライン オンライン学習会・相談会(小学生2名)
12月28日(日) オンライン オンライン学習会・相談会(小学生2名)

取組3

- 取組内容／福島県の浜通りの小学生を対象に、多様な職業や自らの興味関心の発見及びその仕事とのつながりを考えることのできる、体験活動を通じたキャリア教育支援活動を実施した。具体的には、県外の大学生や他の参加者と協力しながら、仕事の要素を含めたゲームを行ったり、自由研究の種となるような簡単な実験に取り組んだりした。
- 対象者／福島県の浜通りの小学生
- 活動地域／福島県南相馬市
- 実績／8月7日(木)～8月8日(金) 南相馬市原町生涯学習センター／鹿島生涯学習センター
キャリア教育支援活動(小学生36名)
12月21日(日) 南相馬市民情報交流センター キャリア教育支援活動(小学生14名)
2月21日(土) 南相馬市健康福祉センター ゆらっと キャリア教育支援活動(小学生10名)



キャリア教育支援活動の様子

事業成果

年間を通して定期的・継続的に、キャリア教育や学習の機会を提供し、福島県浜通り地域の小中高生と大学生の交流を促進したことで、子どもたちの学習意欲や将来への肯定感の向上に寄与することができた。実際に事後アンケートでは、参加した子どもの学習環境や学習意欲に改善が見られた、イベントに参加したことで将来・進学後の不安が解消されたという声が寄せられている。参加者の中には不登校傾向のある子どももあり、本取組が彼らの心のケアや学習機会の保障にもつながったと考えられる。

また、本事業の実施にあたっては、教育に関心を持つ県外の大学生14名が参画した。彼らが年間を通して定期的に福島県を訪問し、子どもたちと深く交流したことは、震災後の福島県の教育現場の現状を学ぶ上で貴重な機会となった。こうした大学生による継続的な関わりは、震災の風化防止と次世代への教訓の継承の一助となり得る。

今後の活動展望

各取組への参加者数が増加傾向にあることや、参加者からの継続を希望する声が寄せられていることをふまえ、ニーズに沿って取組内容を改善させつつ、来年度以降も活動を継続したいと考えている。地域の学校や教育機関、NPO法人との連携をより強固なものとし、地域全体で子どもたちを支える体制の構築を目指すほか、主な活動地域を南相馬市から大熊町ほか浜通り全体へと拡大することも検討している。

学校法人山口学園 ECC国際外語専門学校

団体概要

所在地 大阪府大阪市北区中崎西2-1-6

TEL 06-6311-1446

E-mail tkubo@ecc.ac.jp

URL <https://kokusai.ecc.ac.jp/>

活動分野 社会教育

HP



団体紹介

ECC国際外語専門学校は、語学や専門スキルの習得だけでなく、多彩かつ実践的なプログラムを通じて「100年人間力」を育てることを目指しています。2024年9月、関西地方での福島県の情報発信を継続的に実施するために、福島県と連携協定を締結し、選択教科「つなぐ福島」を開講しました。福島県について学び、風評風化対策、および、現状を知り、受講生それぞれの視点から研究し発信することを目的としております。

地域課題・事業目的

東日本大震災から14年が経過し、関西では福島県の情報に触れる機会も少なくなってきました。風化が進むと感じる一方、コロナ禍以降の地方移住や魅力発見の機会が増え、風評払拭には、いいタイミングであると感じました。また、対象の学生たちは、(良い意味で)震災の記憶が薄い世代になってきており、福島県を訪れ、震災の事実を確認するだけでなく、復興に向け力強く歩む福島県民の努力を知り自己啓発につなげる機会になったり、観光地として魅力のある地であることを若者に広く知ってもらいたいと思ったことが事業の目的です。

事業内容・実績

取組1

●取組内容／【福島を知る】

2025年度通年選択科目として「つなぐ福島」を開講。授業は、県庁広報課やゲストスピーカーを招いたアクティブラーニング、震災からの復興(福島の過去・現在・未来)と福島県の魅力を知る講義を主とします。また、災害を自分事と捉えるために、大阪市北区の防災講習を受講しました。今年度は、大阪・関西万博開催年だったこともあり、7月の福島県出展ブースを視察する特別な経験もできました。

●対象者／学生11名 ●活動地域／大阪府

●実績／カリキュラムは、3構成(全14コマ+期末テスト筆記試験)

(①福島を知る(4月30日～5月28日 4コマ)
福島の基本知識(地理・歴史・観光))

②震災と向き合う(6月4日～7月5日)

東日本大震災について、大阪市北区役所・北区ジシン本、普通救命講習、ホープツーリズムとは

③ゲストスピーカーウィーク(7月9日～23日)

福島県出身タレント・なすびさん、会津アイガモ栽培米 Bond&Co. 代表・ボンド亜貴さん

取組2

●取組内容／福島県視察「スタディツアー」

「つなぐ福島」選択授業受講11名が、2泊3日で福島県を訪問しました。一番学生の心に残った場所は、請戸小学校のようでした。震災発生当時小学生だったこともあり、展示を見ながら、涙する学生の姿が印象的でした。また、農園訪問では、震災後の風評被害や復興、地域再生の取り組みについて学び、研修最終日は、内堀知事へ視察の感想や活動への意気込みをお伝えしました。

●対象者／学生11名 ●活動地域／福島県

●実績／9月2日(火)福島空港→猪苗代湖→ラジオ福島出演→福島観光物産館→穴原温泉吉川屋

9月3日(水)まるせい果樹園→道の駅なみえ→請戸小学校→大平山霊園→東日本大震災・原子力災害伝承館

9月4日(木)福島県庁内堀福島県知事表敬訪問→福島県産業教育振興会→道の駅川俣→観光農園スマイルファーム→福島空港

取組3

●取組内容／福島を発信する「ふくしま DAY」

本学留学生を対象に、学内イベントを2本開催しました。はじめに、クイズ大会を行い、福島県の基礎知識を幅広く学び、正解が多かったチームには桃の加工品セットを、参加者全員に、あかべこのキーホルダーをプレゼントしました。クイズの後には、福島県の震災から復興の歩みや実際に福島県を訪れた感想を発表しました。アンケートには、多くのポジティブな回答を頂きました。

- 対象者／11月26日(水) 25名 台湾、中国、韓国、タイ、ミャンマー、アメリカ、インドネシア、ポーランド
12月 3日(水) 29名 中国、香港、ベトナム、タイ、台湾、ミャンマー

- 活動地域／大阪府

- 実績／11月26日(水) & 12月3日(水)の2日間

学校法人山口学園 ECC国際外語専門学校日本語学科校舎にて、開催。

参加者：9か国の学生54名が参加(8名欠席)

内容：福島県の基礎知識や観光地をクイズ形式で出題。その後、実際に訪れた感想を発表。

取組4

●取組内容／「ふくしまマルシェ」

2025年10月より、大阪市内5か所で「ふくしまマルシェ」を開催。12月7日は、自主開催のイベントで、学生たちが選んだ福島名産品を販売した他、福島から生産者様をお招きし、イベントを盛り上げて頂きました。また、福島県出身のタレント「なすび」さんのラジオ福島特番の公開生放送を2時間実施。多くのお客様に福島の食の魅力と安全性、観光地としての魅力を知って頂く良い機会となりました。

- 対象者／一般市民

- 活動地域／大阪府

- 実績／名産品の販売の他、福島の観光地PR。

10月 4日(土)	福島区民まつり 約1万人
10月19日(日)	北区民カーニバル 約1万人
12月 7日(日)	ふくしまマルシェ(自主開催) 約300～500人
12月18日(木)	本校学園祭・地球祭 約300人～500人
2026年1月17日(土)・18日(日)	福島観光物産展 約1,000人



12月7日(日)に開催した、ふくしまマルシェ集合写真。福島県からお越しくださった生産者様と。



事業成果

事業目的の福島の魅力発信をするために、前期期間をかけて、福島の魅力を学び、実際に研修にて実感してきたことを、取組4で実施しました。取り組みを構成する学生は、震災発生時5歳と、震災の記憶がない中、学びと体験から得た福島県のイメージを「自分事」として発信する姿には、多くの参加者・地域の方々が集まり、商品を購入してくださいました。2度目の実施となった「ふくしまマルシェ」には、前年より多くのお客様やリピーターがお越しください、新たなつながりを実感しました。また、初参加となった観光物産展は、福島県大阪事務所との合同企画。県職員の皆様と学生がイベントを企画し、なすびさんのじゃんけん大会には、150名ものお客様が集まり、昨年より開催イベントを増やしたことで、活動の場が広がりました。



2月5日(木)に行った、活動成果発表会にて。活動を通して募った¥112,781を福島県へ寄付いたしました。

今後の活動展望

今回、第2期生の授業満足度も、非常に高かったこともあり、次年度も同様に教科を続けていく予定です。一方、後期のイベント準備方法は、改善の余地があります。準備期間が短く、教員側で決めてしまうことが多かったため、次年度は、より学生主体にできるよう体制を整えたいです。

また、留学生へ多言語での情報発信を増やし、国内だけでなく、海外へも情報を発信できればと思います。

高校生たちが東日本大震災から14年の福島を語り、 風評被害を払拭するべく福島の復興をアピールする活動

NPO法人 アースウォーカーズ

団体概要

所在地 福島県福島市飯坂町一本松11-7

TEL 090-8301-1123

E-mail info@earthwalkers.jp

URL https://earthwalkers.jp

活動分野 社会教育・文化芸術スポーツ・環境保全・災害救援・人権平和・国際協力

HP



団体紹介

東日本大震災後、福島の子もたちの支援を始め、3年間の支援活動が評価され厚生労働大臣から2014年4月に感謝状を受ける。その後も文部科学省からも補助金を受けながらこの14年間で1,700人を超える子どもたちの支援に関わる。2016年熊本地震、2018年西日本豪雨、ロシアのウクライナ侵攻では難民キャンプなどで支援し、2023年2月に起きたトルコでの地震では福島からの支援物資を届け、現地で炊き出しなどの活動をしてきた。

地域課題・事業目的

原子力災害を受け、福島産農作物は風評被害の影響で他県より安く取引される傾向にある。震災直後は放射性物質が含まれている時期があったが、現在は検出されることも少ないのが現状。そこで福島県の高校生が農作物を測定し、基準値以下であることを体験。その高校生たちが福島の情報が届いていない消費者の意識を変えるため「福島のいま」という自らの震災体験と農作物の風評被害を伝える報告会を通じ風評被害の払拭に寄与する。

事業内容・実績

取組1

●取組内容／高校生を募集し、福島産のお米や野菜などの農作物を検査して放射性物質が基準値以下で安全であることを学び体験したほか、福島で勉強会を行い当時のことから現状まで詳しく学んだ(宿題では震災を覚えている周囲の大人への聞き取りも実施)。また、学んだ高校生自らが福島のいまを伝える報告会を全国20ヶ所で開催、質疑応答にも応えながら高校生からの報告を行った後アンケートを集め、福島県に対する意識の変化などを実感した。

●対象者／報告会に参加した高校生、全国の市民の方々

●活動地域／11月から1月にかけて日本全国20ヶ所(岡山、広島、札幌、函館、大阪、和歌山、宮崎、鹿児島、京都、奈良、長崎、佐賀、熊本、福岡、東京、岐阜、名古屋、神奈川、山形、仙台)での報告会の開催

●実績／9月 放射能測定・勉強会

以下報告会日程 プロジェクトへの参加高校生 35名

11月22日	岡山	25名	12月24日	長崎	20名
11月23日	広島	20名	12月25日	佐賀	30名
11月29日	札幌	22名	12月26日	熊本	26名
11月30日	函館	20名	12月27日	福岡	20名
12月6日	大阪	30名	1月8日	東京	20名
12月7日	和歌山	24名	1月10日	岐阜	30名
12月13日	鹿児島	22名	1月10日	名古屋	20名
12月14日	宮崎	25名	1月11日	神奈川	31名
12月21日	京都	30名	1月17日	山形	15名
12月22日	奈良	30名	1月18日	仙台	20名



報告会の様子

震災当時から今までの福島県の様子をプロジェクターを使いながら一生懸命発表していました。自身の経験や勉強会で学んだことを自分の言葉で説明することでより自分ごとに捉え、参加者だけでなく発表した高校生たちの意識や姿勢も変わる様子を見ることができました。

報告会の様子

高校生たちの発表した内容は県外の市民の方々が知らない内容が多かったようで熱心に聞いてくださり、メモを取りながら聞く方もいました。また高校生によって意見がさまざまで質疑応答ではしっかりと自分の考えを主張しており、福島未来を担う高校生たちの伸びしろを感じました。同様の活動を継続してほしいと言った声を多くいただきました。



事業成果

福島の高校生が、福島のお米や牛肉などの価格が全国平均より低く風評被害が残っている実態を初めて知った事がとても大きい。

測定や学習会を通じ、学生たちが風評被害を払拭したいと自らの言葉を伝えることで「福島を応援したい」「試供されたお米が美味しい」「来月から福島のお米を買いたい」など前向きな声が多く寄せられ、若い世代による発信の影響の大きさを感した。

各報告会は九州・中国・関西・北海道・東北などの新聞に掲載され、想定以上の方の目に留まることできました。

学校では学ばない実情を学び語りあい「復興や風評被害払拭に貢献していきたい」「今まで無関心だった私がたちが発信することが大事だと痛感した」など学生たちの成長がすばらしかった。

どこまで風評被害払拭に繋がったかを測るのは難しいが、参加した若い世代の成長と意識の変化が見られた。彼らが今後、福島復興や風評被害の担い手として活躍していくことが期待できる。

今後の活動展望

今回は20会場での報告会開催となったが、次年度以降は可能な限り全都道府県を回る規模で開催したいと考えている。また今回は40代以上の大人の方々の参加者が多かったため、次世代を担う学生や若者世代にも興味を持ってもらえるような取り組みを増やしていく。アースウォーカーズとしては福島の子どものためのリフレッシュプロジェクトも行っているため、そちらも継続をしつつ、今回協力いただいた報告会開催地のNPOや支援団体などより強固な関係性を築いていき、風評被害払拭に尽力していきたい。

国境を越え、つながる人と人

特定非営利活動法人 Global Mission Japan

団体概要

所在地 福島県いわき市平字尼子町2番地の7

TEL 0246-23-5490

E-mail info@globalmissionjapan.com

URL https://www.globalmissionjapan.com

活動分野 まちづくり・文化芸術スポーツ・災害救援・地域安全・国際協力・経済活性化

HP



団体紹介

東日本大震災発生直後から緊急支援活動を開始し、長期化する避難生活者並びに帰還が進まない町村において、人と人とのつながりを強める活動を行っています。

地域課題・事業目的

世界的にも稀な複合災害を受けての多様な課題のなかで、復興と新たな社会環境の創生は着実に積み重ねられてきました。しかしながら、未だ23,700人(令和7年11月現在)が避難状態にあり、帰還率4%(令和7年現在)の自治体も存在しています。このような人口回復が厳しい状況においては、積極的な人の呼び込みなどで交流・関係人口拡大に取り組み、来訪者には困難を経験したからこそこの福島の潜在的な可能性を見出してもらい、地域にあつては未来に向けた挑戦力を強める必要があります。

事業内容・実績

取組1

- **取組内容** / 視察ツアー説明会をノルウェー国グリムスタ学園ほか、国内外で実施し、来県者は東日本大震災・原子力災害伝承館などを視察しました。ノルウェー学生の長期滞在による福島探求プログラムでは高校生や避難者の方々との交流会を行いました。先端トマト園では斬新なシステムを学び、収穫を体験して、福島の食の安全と魅力も感じてもらうことができました。
- **対象者** / 国内外からの来県者
- **活動地域** / 福島県浜通り
- **実績** / 東日本大震災・原子力災害伝承館及びいわき震災伝承みらい館等視察ツアー
7月14日(5名香港) 7月18日(3名東京/中国)
8月14日(2名東京・宮城) 9月2日~9月8日(7名台湾)
9月14日(4名東京) 10月21日(3名英国)
10月25日(5名ノルウェー) 11月8日(3名大阪)
11月9日(7名東京首都圏) 11月11日(6名ノルウェー)
11月21日(6名ノルウェー) 12月12日(3名東京・ノルウェー)他



ノルウェー学生チーム福島探求ツアー



いわき震災伝承みらい館・視察ツアー



ワンダーファーム・食のイノベーション

取組2

- **取組内容**／とみおか・いわきふれあいフェスでは子供遊び場ブースを設置して、多世代の避難者家族に楽しんでもらいました。県立ふたば未来学園生徒と海外学生が地産農産物を使った料理国際交流会を実施しました。小名浜海星高校では水産専攻生徒へのノルウェー国水産参事官による先進漁業の講話交流会を開催しました。訪県者は避難者等のサークル活動の見学参加で、親しく交わりを持ちました。
- **対象者**／避難者・地域住民・高校生・来訪者
- **活動地域**／福島県浜通り
- **実績**／ 9月7日(日)当団体施設、地産物を使った料理会
(約30名、台湾来県者や地域住民参加)
- 10月18日(土)富岡町いわき支所、とみおか・いわきふれあいフェス
(約200名、避難者や地域住民等参加)
- 11月27日(木)県立ふたば未来学園、地産さつまいもを使った料理会と国際交流会
(42名、生徒や海外学生等)
- 1月16日(金)県立小名浜海星高校、講演会
(49名、生徒やノルウェー大使館・同国学生等参加)



とみおか・いわきふれあいフェス2025



県立ふたば未来学園にて地産料理国際交流会



台湾チームによる地産農産物料理会



県立小名浜海星高校にてノルウェー水産事情講演交流会

事業成果

浜通り地域の人口回復が進まない現状を踏まえ、交流・関係人口を活用して新たな価値観を見出すためのつながりができました。視察ツアーではインフラ・伝承館などの訪問に留まらず、地域住民との触れ合いの機会も多くつくり、SNS交換などで人的つながりが広がりました。高校生と海外学生との地産農産物料理会、また水産業講演交流会では、福島復興を担う若者が視野を広め意欲を高める機会となりました。今年度は新たに震災記憶の無い高校生を対象に学校と連携を図りました。交流会では生徒の探求心高揚が見れて、学校からは再開催の要請を受けました。本事業では様々な取組を行いましたが、すべてにおいてフォローアップの必要性があると考えます。特に人材育成には継続性が求められていることに気づきました。また未来へ前進している地域の思いを、国内外へ発信し続けることも大切で課題でもあると思います。

今後の活動展望

長期化する原発廃炉プロジェクトのなかにあっても、福島への絶え間ない営みを伝える働きを継続します。人のつながりを創り、人間関係の拡大を図ります。次世代を担う若者との協働活動の場を取入れて、未来につながる活力ある被災地の真の復興をめざします。

福島っ子、関西で、首都圏で大躍動の巻。
お越しやすい、福島へ!郷土の伝統芸能を披露する取組を活かし、震災から14年
を越えた「福島の今」や「相馬野馬追」などの「福島の魅力」を発信する。

特定非営利活動法人 姫路発 中高生のための東日本災害ボランティア

団体概要

所在地 兵庫県姫路市豊沢町113

TEL 090-8651-4562

E-mail kaiganjyuku@yahoo.co.jp

URL <https://www.facebook.com/profile.php?id=100064546667831>

活動分野 文化芸術スポーツ・子どもの健全育成

Facebook



団体紹介

この法人は、東日本大震災による被災者に対して、国内外の各種団体と協力し、人的交流を通じた心のケアやとりわけ子どもの安心安全な生活環境の整備と学習を含む支援に関する事業を行い、被災地の子どもたちが孤立することなく、安心して暮らしていくことができる社会の実現に寄与することを目的とする。

地域課題・事業目的

東日本大震災と原子力災害により、住民が県内外に避難することとなったことで、一時は存続が危ぶまれた伝統芸能である「相馬流山踊り」について、2016年に当該団体に相馬流山踊り伝承保存会から相談があり、子どもたちによる「相馬流山踊り」の活動を開始。

子どもたちの相馬流山踊りを、県外で披露することにより、踊りを通して福島県に興味を持ってもらい、「福島県の今」を知ってもらうことにより、風評払拭や風化防止へつなげることを目的に活動した。

事業内容・実績

取組1

●取組内容/大阪・関西万博だ!海外からの観光客に「相馬ながれやま踊りJuniorの会」でおもてなし

小中高生たちが、京都で福島県の元気さ・フレッシュさを「相馬流山踊り」で表現しました。

八坂神社の舞殿は四方から観衆の視線が集まります。それだけに、「失敗は許されない。目を閉じて踊れるように仕上げて参加するよう」指示しました。

全員がその通りに仕上げて来るとは、、、。嬉しい大誤算でした。

一人一人の自信に溢れた踊り、見事でした!

●対象者/大阪・関西万博に海外からお越しの皆さま

●活動地域/南相馬市、京都市

●実績/9月13日、京都知恩院三門と八坂神社で合計5回、「相馬流山踊り」を演舞しました。

踊り手、鳴り物奏者、スタッフを併せて52人。観衆は、大阪・関西万博開催中の土曜日とあって、知恩院では800~1,000人、八坂神社で2,000~3,000人程の観衆でした。



京都 - 八坂神社 舞殿前



奈良 - 東大寺大仏殿を背景に、南大門に向かって演舞しました

取組2

●取組内容／港区と日光東照宮にても福島っ子は躍動しました。

みなと区民まつりでは生憎の雨模様。草履の滑りに気遣いながらも頑張りました。一転、13日の日光東照宮では快晴に恵まれ、演舞会場である五重塔前の広場は大観衆となりました。この日の踊り手たちは殆どが小中生。初心者、ただただ一生懸命に、回を重ねた者は大きく上手に踊っていました。自信を深めた証です。

●対象者／東京都港区周辺の皆さま、日光東照宮を参拝に訪れた皆さま

●活動地域／東京都港区、芝増上寺、日光東照宮

●実績／10月11日、東京都みなと区民まつりに出演しました。

演舞は1回。区民まつりの会場の内、増上寺特設ステージとなりました。

観衆は激しい雨模様となったため200人不足でした。

13日は日光東照宮五重塔前広場にて踊りを2回演舞しました。

日光東照宮では観衆も多く、1,000～2,000人と思われま。

11日と13日の踊り手、鳴り物奏者、スタッフ併せて21人でした。

取組3

●取組内容／福島っ子、伊勢、京都&奈良で「相馬流山踊り」の演舞を通して福島県の躍動を表現。福島へお越しやす。

「相馬ながれやま踊り」Juniorの会」の初期メンバーの殆どが南相馬市を離れてしまいました。今回、参加する子どもたちの殆どは14歳以下となりました。彼らがこれからのJuniorの会の活動の担い手になると思われま。春休みの活動を通じて、更にレベルアップを期待しています。

●対象者／伊勢神宮外宮、京都知恩院、奈良東大寺を訪れた皆さま

●活動地域／南相馬市、伊勢市、京都市、奈良市

●実績／令和8年3月27日は伊勢神宮外宮の勾玉池上の舞殿、29日午前は京都知恩院三門で、午後には奈良東大寺大仏殿にて演舞しました。観衆は伊勢神宮500～800人、知恩院三門800～1,000人、東大寺大仏殿前中門2,000～3,000人でした。東大寺では、中門から南大門までを埋め尽くす程の観衆となりました。29人が参加しました。

事業成果

子どもたちの相馬流山踊りを県外で披露することにより、踊りを通して福島県に興味を持ってもらい、「福島県の今」を知ってもらうことにより、風評払拭や風化防止へつなげることを目的に活動しました。

関東圏・名古屋圏・関西圏の各会場では、県外や外国の方に対し、福島県の現状や国内外からの支援に対する感謝を言葉で伝えるとともに、直接足を運び、福島県の今を見ていただきたいとPRした後、子どもたちは真紅の陣羽織、白着物、袴姿で練習してきた相馬流山踊りを披露しました。

京都八坂神社・奈良東大寺では観客がほとんど外国の方でしたが、子どもたちが披露した相馬流山踊りによって「福島」を強く認識してもらえ、風評風化対策につながったのではないかと考えま。

今後の活動展望

県外において、「福島今」を伝える「相馬流山踊り」を披露する取組について、踊り手となる小学生の参加が増えてきているため、踊りの指導や演奏の協力をいただいている相馬流山踊り伝承保存会とさらに連携していくことで、伝統を継承する担い手を育成し、継続した活動を行っていきま。

都市部のワカモノが伝える!福島のイイモノ、ジモノ

特定非営利活動法人 未来ノチカラ

団体概要

所在地	福島県会津若松市七日町2-39
TEL	0242-85-6735
E-mail	mirainoujou@aizu-net.net
URL	https://aizu-note.webnode.jp/sitachinitsuite/
活動分野	社会教育・農林漁村中山間・経済活性化・職業能力雇用

HP



団体紹介

特定非営利活動法人未来ノチカラは福島県会津若松市に設立されたNPOで、地域社会の振興に寄与することを目的として農業活性化、雇用創出、人材育成に関する事業を行っています。子どもや若者が農業体験を通して未来を描けるよう支援する活動や食育に取り組み、次世代の学びや成長の機会を提供している。

地域課題・事業目的

本事業の課題は、震災・原発事故以降続く風評や情報の風化により、福島の商品や生産者の現状・魅力が都市部の若者に十分伝わっていないこと、また生産者と消費者の直接的な接点が少なく継続的な関係人口の創出に至っていない点である。

目的は、都市部の若者が自ら体験・取材し発信することで福島のイイモノ、ジモノの価値を可視化し、新たな販路と交流を生み出し、地域との継続的なきずなを構築することである。

事業内容・実績

取組1

●取組内容／【都市部の大学生による農業体験(農活)推進事業】

都市部の大学生が地域の人手不足に悩む農家を訪れ、実際に農作業を体験し、その大変さや、新鮮な農産物の美味しさ、農家の想いなどを自分の言葉でSNSや動画などで発信してもらうことで、若い世代を中心に農業や地域の魅力を広く届け、共感や関心を集める。この一連の活動を「農活(のうかつ)」として体系化し、継続的に実施できる体制づくりを目指す。

●対象者／首都圏の大学生等、県内農家、SNS等で情報を知る一般消費者

●活動地域／福島県全域

- 実績／
- | | | | |
|-----------|---------------------------|---------------------|---------------|
| 8月10日～11日 | 大学生含む3名参加 | 会津若松 | 未来ノウジョウ |
| 8月28日～30日 | 大学生2名応募のうち1名キャンセル、1名参加で実施 | いわき市 | ファーム白石 |
| 9月18日～20日 | 大学生2名参加 | 喜多方市 | みなもと農園 |
| 9月27日 | 大学生5名参加 | 地元小学生14名参加による農業体験実施 | 磐梯町 農家のすずきさんち |
| 12月6日～7日 | 大学生2名参加 | 石川町 | 大野農園 |



「農活」事業で都市部の大学生が農作業及び出荷調整作業を体験

取組2

●取組内容／【飲食店とジモノの絆づくり】

都市部の大学生が農業体験で収穫した農作物を地域および都市部の飲食店へ紹介し、新たな販路開拓を行う。地元流通業者と連携し、収穫直後の農産物を試食用として提供。シェフによる料理の試食や、学生自身が調理・試食するイベントも実施した。さらに県内飲食店でのイベントも展開し、その様子や魅力をSNSで発信、消費者の関心向上を図った。

●対象者／飲食店 都市部大学生等 福島県内農家

●活動地域／福島県全域、首都圏

●実績／8月10日 大学生が収穫した野菜を市内地域内飲食店に持ち込み 試食会を開催
9月 首都圏の飲食店での試食会開催に向けて大学生側で企画作成開始
1月 首都圏の飲食店での試食会実施企画完成
2月19日 大学生による調理試食会 会場 早稲田大学
2月25日 首都圏の飲食店(Life is Better… from Yume Wo Katate)での試食会開催

取組3

●取組内容／【都市部の大学生による福島県産農産物の販売会】

都市部の大学生が農業体験で関わった福島県産農産物を自ら販売するイベントを県内外で実施した。学生は生産背景や栽培のこだわりを来場者に直接伝えながら販売を行い、生産者と消費者をつなぐ役割を担った。その結果、農産物の魅力や安全性への理解が深まり、継続的な購入や情報発信につながるなど、販路拡大と関係人口の創出に一定の成果を得た。

●対象者／都市部大学生等 県内農家 県内及び首都圏の消費者

●活動地域／福島県全域、首都圏

●実績／都市部の大学生による福島県産農産物の販売会
8月11日 会津まちなかふれあい市にて、大学生等による販売会実施 大学生等3名参加
8月30日 いわき市内地域イベントにて、大学生と農家による販売会実施 大学生等1名参加
9月20日 会津祭り会場にて 大学生と農家による販売会実施 大学生等1名参加
12月20日 横須賀ポートマーケットにて大学生の販売会実施 大学生等2名参加

取組4

●取組内容／【都市部の大学生と地域の子もたちとの絆づくり】

地域の子もたちと都市部の大学生が農業体験を通じて交流する機会を創出した。子どもたちは農作業の一部を体験し、収穫や販売にも同行することで、食や地域産業への理解を深めた。あわせて、宿泊を伴うプログラムでは「寺子屋」形式の学習時間や、将来の夢や目標について語り合う対話の場を設けた。運動やレクリエーションも実施し、自然な関わりの中で信頼関係を醸成した。

●対象者／地域の子もたち、都市部大学生等 県内農家

●活動地域／福島県全域

●実績／都市部の大学生と地域の子もたちとの絆づくり
9月27日～28日 磐梯町 農家の鈴木さんちにて農業体験、ピザづくりワークショップ、藍染体験、大学区制が教える寺子屋勉強会、創造ワークショップ
大学生5名 小中学生14名参加
12月20日 横須賀ポートマーケットにて大学生の販売会実施
大学生等2名参加 寺子屋小学生2名参加



「はたけ寺子屋」で大学生と地域の子もたちが一緒に農業体験を実施

事業成果

本事業の実施により、都市部の若者の中には地方の活性化や農業に関わる取組に高い関心を持つ層が一定数存在することが確認できた。大学生が農作業や販売活動に主体的に関わることで、福島県産農産物や地域の魅力への理解が深まり、参加者からは今後も福島のために関わられる活動を続けたいとの声が聞かれるなど、関係人口の形成につながる成果が見られた。また、若者の視点による情報発信や販売活動は、生産者にとっても新たな広報手法や販路拡大の可能性を生み、地域住民や子どもたちとの交流を通じて地域への関心を高める波及効果も確認できた。今後は、参加者が継続的に地域と関われる仕組みづくりや、関係人口としての関与を促すフォロー体制を整備することで、取組の持続的な展開につなげていく必要がある。

今後の活動展望

今後は、都市部若者による体験・発信・販売の仕組みを継続的なプログラムとして確立し、参加大学や連携農家、飲食店の拡大を図る。単発の交流にとどめず、定期的な訪問やオンライン発信を組み合わせ、関係人口から実需創出へと発展させる。また、地域の子もたちとの交流も体系化し、次世代の担い手育成と持続的なきずなづくりにつなげていく。

プレイパークで育む希望の絆

一般社団法人 あぶくまエヌエスネット

団体概要

所在地 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂東野字57

TEL 0247-48-2508

E-mail abukuma@basil.ocn.ne.jp

URL <https://abukumansnet.org/>

活動分野 子どもの健全育成

HP



団体紹介

あぶくまエヌエスネットは、福島県鮫川村を拠点に、自然体験活動・環境教育・地域連携型の学びづくりを行う団体。子どもが主体的に動き出す場づくりを重視し、学校・行政・地域と協働しながら、野外活動、放課後支援、冒険教育、防災教育など多様なプログラムを展開している。地域資源を活かした体験を通じて、子どもの成長と地域コミュニティの再生を目指して活動している。

地域課題・事業目的

東日本大震災以降、県内では子どもの遊び場不足や地域コミュニティの希薄化が続き、特に被災地域では屋外で自由に遊ぶ機会が大きく減少している。また、保護者の就労形態の変化により、放課後の安全な居場所づくりも課題となっている。こうした状況の中で、子どもが野外でのびのびと遊び、仲間と関わりながら心身を育む機会を確保することが求められている。本事業では、プレイパーク型の自由な遊び場を各地域で実施し、子どもの主体性・創造性の育成、地域住民との交流促進、安全な遊び環境の提供を目的として取り組んだ。

事業内容・実績

取組1

- **取組内容** / 大熊町の放課後児童クラブにおいて、手作りの遊びを活用したプレイパーク活動を計5回実施した。子どもが自ら遊びを選び、仲間と協力しながら遊びを発展させることを重視した。放課後の限られた時間でも、子どもが主体的に動き出す環境づくりに努め、スタッフと連携しながら安全管理と学びのサポートを行った。子ども137人 教員17人
- **対象者** / 大熊町・夢の森学び舎放課後児童クラブの児童 / 周辺地域の親子
- **活動地域** / 大熊町・夢の森学び舎体育館
- **実績** / 計5回実施(10月～2月 / 屋外・屋内、体育館にて実施) 体育館で手作りの遊び「マグネット釣り、巨大ジェンガ、モルック…」クラフトなど自由遊びをした。暖かく天候の良いときは、校庭で鬼ごっこや鉄棒、ジャングルジムで遊んだ。



会場：大熊町・夢の森学び舎体育館
手作りの遊びに夢中で遊ぶ子どもたち

- **取組内容**／いわき市平の松ヶ岡公園にて、地域の子どもと保護者を対象としたプレイパークを計9回実施した。公園の地形や自然環境を活かし、手作りの遊具を中心に自由度の高い遊びを展開。地域住民や保護者の参加も多く、世代を超えた交流が生まれた。安全管理体制を整えつつ、子どもが自ら挑戦し、遊びを創り出すプロセスを大切に。子ども387人 大人254人
- **対象者**／地域の子ども・保護者
- **活動地域**／いわき市平・松ヶ岡公園
- **実績**／計9回実施(11月～2月)自然環境を活かしたプレイパークを開催。手作りの遊び「マグネット釣り、巨大ジェンガ、モルック…」クラフトなど自由遊びを中心に展開。

- **取組内容**／広野町の二ツ沼総合公園にて、自然環境を活かしたプレイパーク活動を計5回実施した。広い芝生や空間を活用し、手作りの遊び・クラフトなど多様な遊びを展開。地域の子どもたちがのびのびと身体を動かし、出会った仲間と協力しながら遊びを発展させる姿が見られた。保護者も一緒になって遊ぶ姿が印象的だった。また地域住民の見守りも得ながら、安心して遊べる場づくりを行った。子ども178人 大人136人
- **対象者**／地域の子ども・保護者
- **活動地域**／広野町・二ツ沼総合公園
- **実績**／計5回実施(11月～2月)広野町・二ツ沼総合公園。自然環境を活かしたプレイパークを開催。手作りの遊び「マグネット釣り、巨大ジェンガ、モルック…」クラフトなど自由遊びを中心に展開。



会場：二ツ沼総合公園
 たくさんの親子が手作りの
 遊びに夢中になっている

事業成果

本事業を通じて、子どもが主体的に遊びを選び、仲間と協力しながら活動を発展させる姿が多く見られた。特に、手作りの遊び道具を使ったのが、大好評だった。自由度の高い遊びで、子どもの創造性や挑戦する意欲が顕著に育まれた。また、地域住民や保護者が見守り役として参加することで、世代間交流が生まれ、地域のつながりが強まる効果も確認された。放課後児童クラブでの実施では、子どもの安心できる居場所づくりに寄与し、スタッフとの協働により安全管理体制も強化された。さらに、被災地域においては、屋外で自由に遊べる機会が少ない子どもにとって、心身のリフレッシュやストレス軽減につながる重要な場となった。全体として、子どもの成長と地域コミュニティの再生に寄与する成果が得られた。

今後の活動展望

プレイパークの活動の継続を望む声が多数寄せられており、今後も、地域の自然環境や公園を活かしたプレイパーク活動を継続し、子どもが自由に遊び、挑戦し、仲間と育ち合う場を広げていきたい。また、地域住民や保護者、学校、行政との連携を強化し、地域全体で子どもの育ちを支える仕組みづくりを進める。子どもの生きる力を育む総合的なプログラムへ発展させていく。

FUKUSHIMA inVisible Journey

特定非営利活動法人 インビジブル

団体概要

所在地	東京都中央区銀座一丁目22番11号 銀座大竹ビジネス2階
TEL	050-3710-8483
E-mail	info@invisible.tokyo
URL	https://invisible.tokyo/
活動分野	社会教育・まちづくり・観光振興・文化芸術スポーツ・子どもの健全育成

HP



団体紹介

NPO法人インビジブルは、「inVisible to Visible (見えないものを可視化する)」を理念に、アートやクリエイティブの力を活用して地域再生や教育、コミュニティ形成などに取り組む団体です。福島県浜通り地域を主な活動拠点とし、作品の完成のみを目的とせず、制作プロセスにおける対話や共創を通じて、より良い社会の可能性を模索しています。

地域課題・事業目的

本事業は、震災および原子力災害の記憶風化を防ぎ、福島の現在を多角的に伝えることで、浜通りへの認識の刷新と訪問意欲の向上を目的とする。帰還率の低迷、人口減少、風評被害など多くの課題を抱える中、今の福島をより直感的に伝えるには、数値では捉えきれない感情や背景を扱うアートプロジェクトを通じた浜通りの紹介が有効である。今回の事業を通して、来場者には福島をより自分ごととして感じてもらい、同時に福島を災害や困難からの回復の象徴として認識してもらうことで、福島に対する新たなイメージの創出を目指したい。

事業内容・実績

取組 1

- **取組内容** / 浜通りで制作されたアートプロジェクトや作品を、福岡（12月）と京都（1月）の2会場で展示した。9つのプロジェクトを写真・映像・インスタレーションの形で展示したことに加え、現地パートナーとのトークイベントや、浜通りの食と芸術プロジェクトでつくった味噌汁の提供などのイベントを実施した。来場者数は、2会場合計で781名（福岡309名、京都472名）を記録し、福島の「今」を直感的に伝える場を創出した。
- **対象者** / 福岡県福岡市と京都府京都市に暮らす方々やその地に避難している方々
- **活動地域** / 福岡県福岡市、京都府京都市
- **実績** / 2025年12月12日～14日 展覧会「FUKUSHIMA inVisible Journey」とトークイベントを福岡で開催
参加者：309名
2026年1月28日～31日 展覧会「FUKUSHIMA inVisible Journey」とトークイベントを京都で開催
参加者：472名
いずれも都市部の住民に対し、アートを通じて「今の福島」を直感的に伝える場を創出し、訪問意欲の向上に寄与した。



福岡での展覧会の様子

取組2

- **取組内容／実施内容**：浜通りで活動する人々やアーティストの生の声を届ける音声番組を制作・配信した。
配信目的：視覚情報だけでは伝わりにくい現地の空気感を伝え、展示会場に来られない層への継続的な情報発信基盤を構築した。
成果：オンラインを通じて全国へ「聴く福島」を届け、風評払拭と関係人口の創出に向けたデジタルアーカイブを確立した。
- **対象者**／PODCASTを聴ける環境下にある国内外の人
- **活動地域**／収録は大熊町で実施
- **実績**／再生数：1,828回
番組フォロワー：71人
3月31日時点で、浜通りで活動する以下の方の活動について収録
一人当たり20～30分程度で、各自3～4話
近藤学、木村紀夫、日向志帆、南場優生海、山本暁甫、高倉伊助、山根辰洋、猪狩いづみ、荒木信彦、佐藤秀三、トリシット・パネルジー、スワスティカ・ジャジュ



PODCAST



京都での展示会の様子

事業成果

「FUKUSHIMA inVisible Journey」を福岡・京都で開催し、781名が来場しました。対話を通じ、震災の風化が進む実態を痛感した一方、来場者からは「食やアートに興味があり、ぜひ訪れたい」「今回を機に、再び訪れてみたい」といった声や、「福島に対して自らの頭をリセットする機会」といった意見が上がりました。遠方ゆえに関心が希薄だった層の心理的な距離を縮め、浜通りへの認識の刷新と訪問意欲の向上に繋がったことは確かな成果と言えます。

またポッドキャスト配信では、出演者が自身の歩みを言語化し、震災前後を深く振り返る内省的な場を構築しました。大きな復興の物語に隠れがちな「個人の人生」や「暮らしの温度感」が語られたことで、リスナーが一人ひとりの真摯な思いに触れる機会を創出できました。多様な「声」を記録・保存し、福島をより身近に捉え直す本活動の継続的な意義を再確認する機会となりました。

今後の活動展望

復興途上の現状に対し、県外の風化は想像以上に進んでいる。「inVisible Journey」は他県での知る機会を作る上で必要と考え、来年度も人口50～100万人の大都市で年2～3回、展示とトークを開催したい。併せて「こちら福島放送室」を継続。復興公営住宅等での収録にも取り組み、歳月と共に失われつつある「声」を確実に記録・保存する活動に注力する。

「復興支援活動等」に関わる団体の 多様な財源(資源)活用への移行支援

一般社団法人 オープンデータラボ

団体概要

所在地 福島県福島市宮代一本木15-2

TEL 024-553-4013

E-mail info@odl.or.jp

URL https://odl.or.jp/

活動分野 情報化・連絡助言援助・その他

HP



団体紹介

当法人は、企業・行政・学術機関・市民が所有するデータを様々なユーザーによる利活用が可能となるよう最適化をはかり、社会課題の解決や企業活動の効率化、サービスの創出に寄与することを目的とする。

地域課題・事業目的

令和7年4月7日の福島民友新聞の1面の報道にあるように、311以降、増加傾向にあった県内のNPO法人が資金難や高齢化による解散が近年増えている。311以降に設立されたNPO法人の多くは、「ふるさと・きずな維持・再生支援事業 補助金交付要綱」の「復興支援活動等」にあてはまる活動をしてきているが、助成金や補助金をテコに組織基盤を強化して多様な財源・資源を活用する計画の確立と実行ができていない。

事業内容・実績

取組1

●取組内容/対象団体の既存の支援活動と今後のミッション観を大事にしながら、現状の助成金・補助金の依存度を下げていく中期的な資金計画の作成を伴走型で支援した。対象団体は、説明会を実施した上で募集し、2団体を選定した。選定する団体は、①被災や被災後の生活で困難を抱えた個人を支援している団体と、②被災した地域の課題に対し、住民コミュニティの再生や、住民や交流者による地域振興支援を行っている団体とした。

●対象者/①被災や被災後の生活で困難を抱えた個人を支援している団体：1団体
②被災した地域の課題に対し、住民コミュニティの再生や、住民や交流者による地域振興支援を行っている団体：1団体

●活動地域/福島県内

●実績/期間と回数：令和7年9月～令和8年3月にそれぞれ、団体①は3回、団体②は4回実施。
内容：対面とオンラインでのヒアリング、課題抽出、ビジョンやミッションの確認、資金調達計画の作成助言を行った。

取組2

●取組内容/実施取組1で行った支援を活用し、他の復興支援活動等を行う団体にも同様の中期計画の作成を通じた財源移行を促すために、実施取組1の内容を8ページほどの冊子にまとめ100団体に配布。また、その内容の要点を5～10分のスライド動画にし、YouTubeで配信。(3月下旬配布、公開)

●対象者/ふくしま連携復興センター及びふくしま地域活動団体サポートセンターから助言を受けリストアップした。100件

●活動地域/福島県内

●実績/この冊子をPDFデータで県内の「復興支援活動等」に関わる100団体にメールで送付し、また、冊子と同様の内容をYouTubeで公開した。

取組3

- **取組内容**／県および主要な市町村・財団等から公表される情報を、対象団体の希望する分野、予算規模、エリアなどの条件でAIによりフィルタリングや優先順位をつけ、プッシュ型で配信するツール「助成金・補助金情報配信システム」を開発し、公開した。
- **対象者**／取組2の対象やそのほかの団体等へ、広く公開
- **活動地域**／福島県内
- **実績**／取組2のPDFデータおよびYouTube公開内容と共に、取組3の利用方法も「復興支援活動等」に関わる100団体にメールで送付した。
「助成金・補助金情報配信システム」利用登録 <https://npo-deliv.odl.or.jp/>
※本サービスは福島県の復興支援活動を行うNPO等を対象としています。
※Googleアカウントがあればご利用いただけます。



事業成果

取組1の実施過程および、期限付きの財源で「復興支援活動等」を行う団体が次年度予定される財源の削減・消滅に際してどのように対応するか、いくつかのケースを見てきた（その中には、当団体の自主活動で支援を行っているものも含む）。そこで得た気づきは、①比較的小規模の補助金・助成金で運営している団体は具体的な活動や事業の内容を柔軟に変更することが可能だが、意思決定層が兼業であることから専業への移行を計画する際のリスク・不確定要素が大きく、専業へのモチベーションが強まりづらいことがある。②比較的大規模の委託等で雇用者も多い団体は、人数はあるが、委託の仕様上、雇用者が次の事業形成に関わったり、知見を団体内やいずれ他の「復興支援活動等」を行う団体に所属して活かすことを前提にキャリア形成をすることがしにくい（理由としては、財源が同時期に切れる、地域おこし協力隊のように、期間終了後に知見を活かした地域内転職や創業をするための環境整備の経費が組み込まれていない等）がある。

これを踏まえて、取組2では、「復興支援活動等」に関わる団体が、現状の期限付きの資金源に依存する状況から変化をするための考え方に触れ、方向性を整理する助けとなる内容に修正した。取組3と合わせて、当団体が今後支援を行う上で、支援先の団体に多様な資金活用に目を向けてもらうためのツールを整えることができた。

今後の活動展望

当団体の「復興支援活動等」を行う団体に対する課題意識は、期限付き財源が無くなってしまった時点で事業や雇用が停止してしまい、残るニーズへの対応や知見を社会に還元することなく活動ひいては団体そのものが無くなってしまふことである。それを防ぐために、本事業で作成した冊子とツールを活用し、団体の状況や規模に合わせて、「復興支援活動等」から平時の課題解決を扱う活動への移行、さらに、その手前の団体の方向性の整理から支援を続けていきたい。

復興を担うプレーヤー・市民団体を増やすための プロジェクト組成・伴走支援プロジェクト

特定非営利活動法人 コースター

団体概要

所在地 福島県郡山市富久山町久保田字下河原191-1

TEL 090-5189-9014

E-mail info@costar-npo.org

URL https://costar-npo.org/

活動分野 社会教育・まちづくり

HP



団体紹介

福島で活動する人材を輩出するために、若手人材の育成とその基盤整備を行うために、コミュニティスペース運営、まちづくり支援、人材育成・中間支援の3つの事業を実施している。

地域課題・事業目的

復興に携わるプレーヤーの減少により、復興支援団体の活力が低下している。また、被災者が避難元・避難先でまちとのつながりを持っていない課題もある。福島の復興に向けてビジネス・市民活動問わず、小さな一歩からアクションを起こすプレーヤーの輩出を目的とする。そのために、インターンシップで復興プレーヤーの下で大学生が学ぶ場の提供、復興に必要なことを学ぶ勉強会や被災者と避難先の住民が交流する合同文化祭イベントなどを通じて、伴走支援および中間支援による人材育成モデルの構築を目指す。

事業内容・実績

取組1

- **取組内容** / 1～2か月の実践型インターンシップを通して、復興活動に取り組むNPOや企業14団体・38名の大学生のマッチングを実施した。主に原発事故被災12市町村に滞在し、被災地の現状や受入団体が抱える課題を肌で感じ、課題解決に向けて企画を担った。具体的には、相双地域の特産品・復興に関するサービスの企画や団体のPR、対象地域で起業した若手プレーヤーの元で活動するプロジェクトを行った。
- **対象者** / 全国各地の大学生
 - ・原発事故被災地12市町村で活動を行う企業・NPO
- **活動地域** / 富岡町、大熊町、川内村、楡葉町、広野町
- **実績** / 被災12市町村で活動する14団体の企業・NPOと38名の大学生のインターンシップのマッチングを行った。2025年8月～9月、26年2月～3月の夏・春それぞれで、1か月間、地域・復興課題に共に取り組み、その募集と伴走支援を行った。



インターンシップでの中間研修の様子

取組2

- **取組内容**／復興を担う市民活動のプレイヤーを輩出するために、サークル立ち上げの支援やコミュニティビジネスに関する中間支援を行う。具体的には、被災地で活動する上で必要となる知識やプレイヤーの活動内容を聞く勉強会や、被災地での活動を希望するフリーランス向けの勉強会の他、コーディネーターによる活動立上に向けた相談・伴走支援を行った。
- **対象者**／・地域内外問わず、被災12市町村での活動に興味がある人材(学生・フリーランス)
・被災12市町村で起業・活動を開始した団体・企業
- **活動地域**／富岡町、檜葉町、大熊町、双葉町、川内村
- **実績**／7月～12月の間、隔週でオンラインにて被災地で活動したいと考えているフリーランス向けに勉強会(12回)、先進地でコミュニティづくりに取り組むプレイヤーをゲストにした勉強会(4回)の他、被災地でのイベントの立上など、5団体に対して、6回のイベントの実施の支援および毎月伴走支援を行った。



勉強会実施の様子



ふれあい祭りの様子

取組3

- **取組内容**／復興公営住宅など多くの被災者が生活する郡山市で、被災者と郡山市民が一市民として交流をする合同文化祭イベント「ふたば・こおりやまふれあい祭り」を実施した。手芸・工芸などの復興公営住宅の住民が主宰するサークルや既に郡山市で活動されているサークルの製作物の展示・販売しながら、出展者同士、参加者と出展者とのつながりづくりを目指した。
- **対象者**／・郡山に避難・移住した被災者
・郡山中心に活動する市民団体
- **活動地域**／郡山市
- **実績**／2025年11月29日にビッグパレットふくしまにて、約30団体の被災者・郡山市の市民団体の出展の下、合同文化祭を実施した。来場者は850名を超え、手芸品・ワークショップ・活動発表(踊りやマジック)の他、キッチンカーなど食事を食べながら交流できる場の提供を行い、非常にわきあいあいコミュニケーションを取れる場となった。

事業成果

- **インターンシップ**：継続的にアルバイトや関係人口として被災12市町村に関わる学生が半数を超えている他、インターン先に就職を希望する学生もあり、一過性で終わらない場となった。
- **勉強会**：本来、塩漬けになっていた事業やイベントづくりの開発につながった他、勉強会に参加したフリーランスが支援したイベントに訪問し、自発的にPR動画をつくるなど、勉強会では終わらない連携のきっかけづくりにもつながった。
- **ふたば・こおりやまふれあい祭り**：非常に大盛況に終わり、次年度も開催を望む声が多くあった。また、主に、富岡町・大熊町・双葉町・浪江町を対象に実施していたが、被災自治体や被災12市町村でまちづくりに関わる団体の出展もあり、被災者および郡山市民に今の被災12市町村の現状を知ってもらうきっかけとなった。

今後の活動展望

インターンシップは、継続して実施していく他、OBOGを巻き込んだ取組をしていくことで、お客さんとしての関係人口で終わるのではなく、副業人材やボランティアとして継続して関わってもらえる場づくりを行いたい。また、勉強会やイベントの伴走支援を通じてプレイヤーを増やす他、中間支援団体としてのPRを行い、寄付収入を増やしていきたいと考えている。

支援者疲れを乗り越えていけ! 学生が自分自身で地域との 継続した関わり方を見出し走り続けられる仕組みづくり事業

一般社団法人 葛力創造舎

団体概要

所在地 福島県双葉郡葛尾村大字落合字夏湯134

TEL 0240-23-6820

E-mail info@katsuryoku-s.com

URL https://katsuryoku-s.com

活動分野 まちづくり

HP



団体紹介

一般社団法人 葛力創造舎は、東日本大震災後に避難指示のあった福島県葛尾村にて、持続可能な地域社会の創造を目指し2012年に設立された団体です。民泊「ZICCA」やアーティスト移住支援「Katsurao Collective」など関係人口の創出や商品開発に取り組み、過疎化が進む村での新たな経済・コミュニティの形を模索しています。

地域課題・事業目的

2011年の東日本大震災に伴う原発事故により双葉郡の各地域コミュニティはバラバラになり、さまざまな問題が噴出した。14年経過しても収束の見通しは立っていない。これに対し地域住民やNPO等は課題解決に当たってきたが、一時的なインターン生のかかわりなどから地域が非協力的になったり、不安定な財源でNPO支援職員が定着しないなど「支援者疲れ」が顕著になっている。そこで、本事業では学生が自分自身で地域との継続した関わり方を見出し走り続けられる仕組みづくりを行い双葉郡の復興に寄与したいと思う。

事業内容・実績

取組 1

- 取組内容／学生が自ら地域との関わり方を構築し自走できる仕組みづくりを行った。学生をNPO団体等だけが支援するのではなく、地域の各団体(行政・地元青年会議所等)や外部のサポーター(大学・ボランティア団体等)が協力して支援する仕組みをつくった。そのために、カンファレンスを実施した。
- 対象者／・地域課題解決に取り組むNPO団体等
・双葉郡に引き続き関わりたいが関わっていない社会人、大学生、高校生(地域に一度かかわったが、継続して関わりたい学生)

- 活動地域／被災12市町村

- 実績／第1回カンファレンス 10月12日～10月13日 広野町ハタゴインひろの 30名参加 課題出し
- 第2回カンファレンス 11月 2日～11月 3日 双葉町産業交流センター 30名参加 課題分析
- 第3回カンファレンス 2月17日～ 2月19日 浪江町會澤高圧コンクリート赫の間 30名参加 アイディア出し



第3回カンファレンスの様子

取組2

- **取組内容**／学生が自らプロジェクト設計・実施・評価ができるように教材を作成した。教材は、ワークシートやチェックシートを作成した。作成にあたっては14年間の双葉郡の各プロジェクトの成功と失敗をヒアリングし反映させた。教材については、特に初回での企業との関係構築がその後の継続的な関わりに影響を与えるヒアリング結果が多かったため、関係づくりに関するマインドセットや、ヒアリングに関するインプットを行った。
- **対象者**／
 - ・地域課題解決に取り組むNPO団体等
 - ・双葉郡に引き続き関わりたいが関わっていない社会人、大学生、高校生（地域に一度関わったが、継続して関わりたい学生）



学生インターンの様子

- **活動地域**／被災12市町村
- **実績**／学生が地域に定着するためには地域住民との関係性の構築が重要であるため映像教材とワークシートの作成をおこない、学生に実証を行った。映像教材に関しては双葉郡の現状についての行政関係者からのインプット、インターン研究者からの解説などを入れて作成し学生に視聴してもらい、これをもとにグループワークとワークシートを使用し、初回のマインドセットを行った。

取組3

- **取組内容**／今年度カンファレンスとプロジェクト実施教材の実証を行った。インターンを通したきっかけづくりだけではなく、継続し関係構築をして成果をだす仕組みづくりを想定しているため、一度双葉郡で活動をした経験のある学生をターゲットにした。
- **対象者**／
 - ・地域課題解決に取り組むNPO団体等
 - ・双葉郡に引き続き関わりたいが関わっていない社会人、大学生、高校生（地域に一度関わったが、継続して関わりたい学生）
- **活動地域**／被災12市町村
- **実績**／2025年12月～2026年3月までに5名の学生に参加していただき実証インターンを行った。カンファレンスによりこれまでの解をつくるより問をつくる方が学生の主体性と地域との関係継続が見込まれることから、行政・地域づくり団体・企業などの地域のステークホルダーへのヒアリングから学生の問をつくる内容とした。感想から来年度も継続した活動が見込まれている。

事業成果

本事業では、学生が地域と主体的に関わり、自走できる仕組みの構築を目的として、「カンファレンスの実施」「教材の作成」「インターンシップの実証」の3点を軸に展開いたしました。

実施の結果、参加学生からは「来年度も継続して地域に関わりたい」との前向きなフィードバックを得ており、地域に対する愛着心の醸成に一定の成果が見られました。また、一連のカンファレンスを通じて、事業の持続可能性を担保するためには、単なる制度やスキームの構築以上に、地域住民と学生との間の深い「関係性」の構築が極めて重要であるという知見が得られました。

今後の活動展望

地域と学生の持続的な関係構築には「対話」のスキルが不可欠であることが明らかになりました。被災地域において両者の交流が自然に深化するよう、対話の文化を地域に根付かせることが肝要です。次年度は本年度に続きカンファレンスとインターンを継続しつつ、特に対話力の向上に注力いたします。これにより、学生と地域の関係性を質的に高め、事業効果の最大化と自走可能な仕組みの定着を図ります。

今後の展望として、仕組みの運用に留まらず、情緒的なつながりを重視した関係人口の創出に注力することで、学生による地域活動の自律的な継続を目指してまいります。

活動地域別取組一覧

活動地域	取組名	実施団体名	ページ
富岡町	「とみおか表現塾」の新講座開設	特定非営利活動法人 富岡町 3・11 を語る会	P10
	演劇キャンプin 富岡 2025 の全国的展開		
	第 4 回富岡演劇祭 2025 の開催		
双葉郡	継続的な双葉郡運動会実施のための基盤整備	双葉郡大運動会 実行委員会	P12
	外部講師による SNS 等情報発信スキルの強化事業		
富岡町 大熊町 川内村 檜葉町 広野町	福島復興のプレーヤーと一緒に活動する福島復興・課題解決インターンシップ	特定非営利活動法人 コースター	P38
	被災地および被災地のスモールスタートを支援する中間支援事業		
飯館村	「いいたて村の村民食堂」 —「食」を通じたいきがづくりと交流	特定非営利活動法人 もりの駅まごころ 運営協議会	P14
	「までいな村の自分史」作成事業 —「私たちの村づくり」の歴史を復興に活かす		
	「ホラ」から始める長泥復興 —村民×大学生による復興アイデアの実現を目指すプロジェクト		
相馬市 双葉町	相双のいまを知るライター・イン・レジデンスプログラム	特定非営利活動法人 相馬はらがま朝市クラブ	P16
	相双のいまを言葉でつむぎ伝える冊子と Web で発信		
	相双の住民と学生がつながりを深める現地交流会		
南相馬市 大熊町	学習会・不登校に関する相談会の実施	特定非営利活動法人 日本教育復興連盟	P20
郡山市	被災者と避難先の市民の垣根を超えた合同文化祭 「ふたば・こおりやまふれあい祭り」の実施	特定非営利活動法人 コースター	P38
大熊町 広野町 いわき市	プレイパーク活動を実践	一般社団法人 あぶくまエヌエスネット	P32
いわき市	【minnato なかのさく】 うみあそび	NPO 法人 中之作プロジェクト	P8
	【minnato なかのさく】 ぼんおどり		
	【minnato なかのさく】 みちあそび		
	【minnato なかのさく】 つるし雛飾りまつり		
南相馬市	多様な体験活動を通じたキャリア教育支援活動	特定非営利活動法人 日本教育復興連盟	P20
被災 12 市町村	プロジェクトサポート体制構築	一般社団法人 葛力創造舎	P40
	プロジェクト実施教材作成		
	実証インターン		

活動地域	取組名	実施団体名	ページ
浜通り	福島の復興に力強さと可能性を見つける視察ツアー	特定非営利活動法人 Global Mission Japan	P26
	県民との交流から得た魅力を世界へアピール		
福島県	風評被害を乗り越えてきた事業者の商品開発動画作成	一般社団法人 Bridge for Fukushima	P18
	福島県視察「スタディツアー」(2泊3日)	学校法人山口学園 ECC国際外語専門学校	P22
	首都圏の大学生による農業体験(農活)推進事業	特定非営利活動法人 未来ノチカラ	P30
	資金調達中期計画作成パイロット伴走支援	一般社団法人 オープンデータラボ	P36
	実施取組1の内容を冊子まとめ、配布・動画配信することによる復興支援活動等への啓発		
	AI・ICT活用による行政の入札・公募情報の発信ツールの開発提供		
首都圏 福島県	都市部の学生と地域の子どもたちとの絆づくり	特定非営利活動法人 未来ノチカラ	P30
	飲食店とジモノの絆づくり		
	都市部の大学生による福島県産農産物の販売会		
東京都 福島県	高校生による地元産品を使った6次化商品開発プロジェクト	一般社団法人 Bridge for Fukushima	P18
大阪府	福島を知る	学校法人山口学園 ECC国際外語専門学校	P22
	福島を発信する「ふくしま DAY」		
	福島県銘産品市「ふくしまマルシェ」		
京都府	相双のいまと関西をつなぐマルシェ交流会	特定非営利活動法人 相馬はらがま朝市クラブ	P16
	大阪・関西万博だ!海外からの観光客に京都知恩院三門と八坂神社で「相馬ながれやま踊り Juniorの会」がおもてなし		
東京都 栃木県	首都圏では港区と日光!「みなと区民まつり」にて、東照宮にて福島っ子躍動します。	特定非営利活動法人 姫路発 中高生のための 東日本災害ボランティア	P28
三重県 京都府 奈良県	福島っ子、伊勢で京都で伝統芸能を通じて福島県の躍動を表現。福島へお越しやす。		
京都府 福岡県	展覧会+イベント-FUKUSHIMA inVisible Journey	特定非営利活動法人 インビジブル	P34
オンライン	浜通りで活動する人を紹介・発信するインターネットラジオ「こちら福島放送室」	特定非営利活動法人 日本教育復興連盟	P20
	オンライン学習会・相談会の実施		
全国 (20カ所)	福島の高校生たちによる風評被害を払拭させる活動	NPO法人 アースウォーカーズ	P24

令和7年度
ふるさと・きずな維持・再生支援事業
活動成果報告書

令和8年3月31日発行

発行 福島県企画調整部文化スポーツ局 文化振興課
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 (県庁本庁舎5階)
電話 024-521-7179 FAX 024-521-5677

運営受託 認定特定非営利活動法人 ふくしまNPOネットワークセンター

事務局 ふくしま地域活動団体サポートセンター
〒960-8043 福島県福島市中町8-2 福島県自治会館7階
電話 024-521-7333 FAX 024-521-2741

